

II

履修概要

1	大学院の教育課程	20
2	学位論文	23
3	授業	29
4	単位制	33
5	履修登録	48
6	学修成果	50
7	学修状況チェックシステムと ポートフォリオ	65
8	学籍・修業年限・学費	69
9	学生サポート	73

1

大学院の教育課程

大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行われます。

(1) 博士前期課程

○課程の修了要件（大学院学則第21条）

- 1) 博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、所要の授業科目について30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。なお、この制度により学位申請する場合は、修士論文題目届提出の際に指導教員の推薦書を添付すること。また、修士論文提出の際に業績一覧2部を併せて提出すること。
- 2) 博士前期課程の目的に応じて適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって、修士論文の審査に代えることができる。
（*現在はグローバル理工学プログラムの履修生として選抜された者に適用されている。）
- 3) 修了要件として各専攻、コースで定めた必修科目の単位を修得する必要があるため、各専攻のガイダンス及び大学院学則を確認の上、履修登録を行うこと。
- 4) 博士前期課程学生が、所属専攻以外の専攻の授業科目を履修する場合及び単位互換協定を締結している他大学大学院の授業科目を履修する場合の単位認定は下記のとおりである。

専攻	他大学大学院の科目履修	所属専攻以外の科目履修	共通科目
比較社会文化学専攻	合計10単位まで認定可		
人間発達科学専攻			
ジェンダー社会科学専攻			
ライフサイエンス専攻			
理学専攻			
生活工学共同専攻			

他大学大学院（単位互換）、他専攻の授業科目履修については、指導教員の指導により履修すること。

5) 生活工学共同専攻の修了要件

必修単位を含めて30単位以上履修すること。また、相手大学（奈良女子大学）の開講科目を専門科目群より4単位以上履修した上で、合計10単位以上履修すること（p.54「授業科目一覧」を参照）。

○指導教員

指導教員は出願時の希望や各々の研究テーマに基づき、各コースのオリエンテーションを経て決定する。決定次第、Web入力により研究題目を登録・印刷し、指導教員の署名・押印及び申請者本人の押印のある研究題目届を学務課大学院担当まで提出すること。なお、主任指導教員は、入学時に配付する「教員配置表」の中から選択すること。

(2) 博士後期課程

○課程の修了要件（大学院学則第22条）

- 1) 博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、所要の授業科目について10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとするが、本学大学院博士前期課程を1年で修了した者及び他の大学の大学院の修士課程を1年で修了した者は、博士後期課程に2年以上在学しなければならない。

科目区分	単位数	修了単位（10単位） として認められる単位数	備考
各教員の演習・講義科目	各2単位	6単位まで	各教員が開講する演習・講義科目から履修すること
研究報告（基礎）	1単位	1単位（必修）	欄外③を参照
研究報告（発展）	1単位	1単位（必修）	
論文指導	2単位	2単位（必修）	主任指導教員または副指導教員が開講する論文指導
特別講義	各2単位	2単位まで	客員教員等による集中講義
共通科目	各2単位	2単位まで	前期課程設置と後期課程設置の共通科目のうちどちらも履修可（修了単位数に含まれない科目があるので注意すること）
他大学大学院研究科科目	各2～4単位	4単位まで	単位互換協定に基づく特別聴講（博士後期課程の単位を設けている研究科）

- ① 修了単位として必要な単位数は10単位である。
- ② 研究報告（基礎）、研究報告（発展）、論文指導は必修科目である。
- ③ 当該年度における研究の進行状況・成果・今後の研究計画等をまとめて報告する。1年次は「研究報告（基礎）」、2年次は「研究報告（発展）」とし、それぞれ1単位の科目である。1年次と2年次の1月下旬に、研究報告を指導教員全員に提出する。（主任指導教員には、学務課で配付する「研究報告届」を添えて提出すること。）
主任指導教員が適宜他の指導教員の評価を参考にして評価を行う。
また、単位認定はしないが、3年次に、研究報告（3年次）として「3年間のまとめを含む」レポートの他研究成果の印刷公表及び口頭発表等業績一覧を必ず添付の上、12月中旬に提出すること。この研究報告（3年次）を提出しないと、単位修得退学の要件を満たすことができないので注意すること。学位論文を提出せず、引き続き在学（留年）する場合も同様に研究報告（3年次）を提出すること。なお、学位論文提出者については、学位論文の要旨をもって3年次の研究報告に替えることができる。
- ④ 同一教員から取得することのできる単位数は8単位までである。
- ⑤ 同一名の科目を2回以上履修しても、修了単位として認められるのは1回の履修による単位である。

2) 生活工学共同専攻の修了要件

1) の規定によらず、当該課程に3年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本学大学院の行う博士論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格しなければならない。当該課程において優れた研究業績を上げたと認められた者の在学期間に関しては、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。ただし、本学大学院博士前期課程を1年で修了した者及び他の大学の大学院の修士課程を1年で修了した者は、博士後期課程に2年以上在学しなければならない。

必修科目を含めて合計20単位以上履修すること。

教育・研究上有益と認められるときは、他専攻ならびに他大学大学院研究科科目を履修することが出来る。このうち4単位までを本共同専攻での履修単位として認定する。履修科目は、指導教員の指導を受けた上で決定する。

科目区分	単位数	修了要件（20単位） 単位数	備考
研究倫理・研究マネジメント	1単位	1単位（必修）	
生活工学特別研究（博士）	10単位	10単位（必修）	
共通科目・他専攻科目・他大学 大学院研究科科目	各1～4単位	なし	修了要件単位として4単位 まで算入可能

- 3) やむなく論文提出以前に単位を修得し退学することとなった場合には、退学願を提出すること（3月末日退学：2月末日まで、9月末日退学：8月末日まで）。退学後再入学せずに博士論文を提出する場合、単位修得退学後3年以内であれば審査における免除事項がある。なお、再入学する場合は学位論文提出可能な者とし、全指導教員の許可が必要となる。

○指導教員

博士後期課程では、深い専門性と同時に幅広い視野を修得させるため複数指導教員制をとっている。専門領域の教員を主任指導とし、隣接する領域の研究者を副指導教員とすることができる。学生はまず主任指導教員1名を決めた上で、学生の研究テーマに合わせて、より専門に近い副指導教員（原則として1名以上）を決める。

ただし、比較社会文化学専攻の副指導教員は、原則として2名とする。主任指導教員は、入学時に配付する主任指導担当教員一覧の教員の中から選択すること。

学生は、各指導教員と常に自己の研究内容の進行状況の連絡を保ち、相談しアドバイスを受けつつ研究を進め、年間の成

果を「研究報告」レポートとしてまとめる。学位論文作成については、主として主任指導教員から指導・アドバイスを受けることとなる。

(3) 特別研究派遣学生（大学院学則第18条）

- 1) 他の国立大学法人大学院若しくは国立研究所等との協議に基づき、学生が他の大学院等において必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- 2) 名古屋市立大学の大学院との協議に基づき、学生が名古屋市立大学大学院薬学研究科において必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- 3) 学習院大学の大学院との協議に基づき、学生が学習院大学大学院自然科学研究科において必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- 4) 北里大学の大学院との協議に基づき、学生が北里大学大学院薬学研究科において必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- 5) 早稲田大学の大学院との協議に基づき、学生が早稲田大学大学院先進理工学研究科において必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- 6) 芝浦工業大学の大学院との協議に基づき、学生が芝浦工業大学大学院理工学研究科において必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- 7) 慶應義塾大学の大学院との協議に基づき、学生が慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科において必要な研究指導を受けることを認めることがある。
- 8) 他大学院等において研究指導を受けようとする場合は、次の書類を添えて学務課大学院担当へ提出すること。（研究指導を受ける開始月の3ヶ月前の末日までに提出）
 - ① 特別研究派遣学生申請書（別記様式3）【P. 47参照】
 - ② 指導教員の推薦書（A4判様式適宜、押印必要）
 - ③ 研究計画書（A4判）
- 9) 研究指導を受ける期間は、博士前期課程では1年を、博士後期課程では2年を、それぞれ超えないものとする。

(1) 修士論文

○学位の名称

本学が授与する学位の名称は修士（人文科学・社会科学・生活科学・理学・生活工学・工学・学術）とする。本学学位規則第2条を参照すること。専攻研究分野によって授与される学位の名称が異なる。

○修士論文の提出

(注) おおよそのスケジュールは以下のとおり。実際に論文を提出する際には、その年度の日程を掲示及び学生ポータルサイト等を通じて確認すること。

1) 3月修了予定者の修士論文提出日程

① 特別研究の履修登録

修了予定年度の4月に特別研究（通年不定期科目）を履修登録する。（9月修了予定の場合も同様）特別研究とは修士論文の執筆、それに関連する研究及び指導教員の論文指導のことである。

② 修士論文題目届（Web上で入力・印刷した上、主任指導教員の署名・押印及び申請者本人の押印が必要）

提出期限：10月中旬頃 午後5時

提出場所：学務課大学院担当

※1年生が大学院学則第21条により1年での修了を希望する場合は、修士論文題目届提出の際に指導教員の推薦書を添付すること。また、修士論文提出の際に業績一覧2部を併せて提出すること。

③ 修士論文の要旨

表紙は不要。要旨の本文ページのトップに修士論文題目、次の行の右端に専攻名、コース名、氏名を記載すること。

専攻	コース	様式
比較社会文化学専攻	日本語日本文学、アジア言語文化学、英語圏・仏語圏言語文化学、日本語教育	A4判 片面横書き 1枚 1,000字程度
	思想文化学、歴史文化学、生活文化学、舞踊・表現行動学、音楽表現学	A4判 片面横書き 2枚 2,000字程度
人間発達科学専攻	全コース	A4判 片面横書き 2枚 2,000字程度
ジェンダー社会科学専攻	全コース	A4判 片面横書き 2枚 2,000字程度
ライフサイエンス専攻	食品栄養科学	A4判 片面横書き 1枚
	生命科学、人間・環境科学、遺伝カウンセリング	A4判 片面横書き 2枚
理学専攻	全コース	A4判 片面横書き 2枚
生活工学共同専攻	全コース	A4判 片面横書き 2枚

※ 提出期限：1月上旬頃

提出場所：学務課大学院担当

専攻毎に取りまとめて「修士論文要旨集」を作成するので、期日までに必ず提出すること。

④ 修士論文 提出部数 1部

専攻	提出期限
比較社会文化学専攻 人間発達科学専攻 (発達臨床心理学コースを除く) ジェンダー社会科学専攻	1月上旬頃 午後5時
人間発達科学専攻 発達臨床心理学コース ライフサイエンス専攻 理学専攻 生活工学共同専攻	1月中旬頃 午後5時

2) 9月修了予定者の修士論文提出日程

① 特別研究の履修登録

修了予定年度の4月に特別研究（通年不定期科目）を履修登録する。

特別研究とは修士論文の執筆、関連する研究及び指導教員の論文指導のことである。

② 修士論文題目届（Web上で入力・印刷した上、主任指導教員の署名・押印及び申請者本人の押印が必要）

提出期限：6月中旬頃 午後5時

提出場所：学務課大学院担当

③ 修士論文の要旨

様式は3月修了予定者と同じとする。

提出期限：7月中旬頃 午後5時

提出場所：学務課大学院担当

なお、9月修了予定者の要旨は3月修了予定者の要旨と併せて要旨集を作成する。

④ 修士論文

提出期限：7月中旬頃 午後5時

提出場所：学務課大学院担当

○学位論文の審査及び最終試験

最終試験は、論文を中心としてこれに関連する科目について口答又は筆答により行う。

なお、最終試験は、発表会と兼ねて行うことができる。

○学位授与の判定

1) 論文審査及び最終試験が終了したときは、専攻会議において学位授与の賛否の審議を行う。

2) 専攻会議において合格とされた者を代議員会において、学位授与者として決定し、学長に報告する。

○学位授与

3月又は9月の学位記授与式において学位記を授与する。

(2) 博士論文

○学位の名称

本学が授与する学位の名称は博士（人文科学・社会科学・生活科学・理学・生活工学・工学・学術・理学グローバルリーダー・工学グローバルリーダー・学術グローバルリーダー）とする。本学学位規則第2条を参照すること。専攻研究分野によって授与される学位の名称が異なる。

○学位申請について

1～3年次生を対象に学位論文説明会を6月中旬に開催するので掲示に従い出席のこと。

(注) おおよそのスケジュールは以下のとおり。実際に論文を提出する際には、その年度の日程を博士論文提出要項にて確認すること。

※学位を授与される者は、原則として学位論文の全文と要旨をインターネットにより公表する必要があります。学位論文執筆の段階から、このことに留意して進めてください。

1. 学位論文提出資格

下記のA又はBを満たし、かつ論文審査期間は在学していること。

A：本研究科に3年以上在学（見込可）し、所定の単位を修得（見込可）し、必要な研究指導を受け、かつ、各専攻で定められた学位論文提出要件を満たしている者

B：1、2年次に在学中であり、修了予定時において1年以上在学し、所定の単位を修得（見込可）し、かつ専攻で定められた「学位論文提出要件」及び「早期修了要件」を満たしている者で、主任指導教員から早期修了の推薦を受けた者（早期修了予定者、後日代議員会の議を経る。）

2. 旧姓の併記について

希望者は旧姓を括弧書きで併記して申請することができ、博士學位論文及び博士學位記に旧姓を併記することが可能です。

3. 学位論文申請について

学位論文申請は、毎年度2回です。「学位論文題目届」等の提出期限は次のとおりです。

- (1) 4月下旬頃 午後5時まで（厳守）〔9月修了を予定する者〕
- (2) 9月下旬頃 午後5時まで（厳守）〔3月修了を予定する者〕

論文の提出を予定している者は、早めに主任指導教員と博士論文の提出について相談し、予備審査を経た後、主任・副指導教員の了承（署名・押印）を得た上で、下記の書類を学務課に提出すること。「学位論文題目届」等を期限内に提出しないと、学位論文を提出することができません。

【学生が提出するもの】

- ① 「学位論文題目届」（学務課で配付、主任・副指導教員の署名・押印が必要）
- ② 「学位論文提出者調書」（学務課で配付）

（注）早期修了を希望する場合は、早めに主任指導教員と相談すること。

【教員が提出するもの】（該当者のみ）

- ① 「外部審査委員申請書」
主任指導教員が学位論文審査の透明性・客観性を確保するために外部審査委員が必要であると認めた場合、下記の期限までに教員が作成し、学務課に提出します。（様式は、教員がAipoからダウンロード又は学務課から配付）会議の審議を経て了承される必要があります。
- ② 「博士後期課程早期修了に関する推薦書」
申請者が早期修了を希望し、主任指導教員が学位論文提出要件及び早期修了要件を満たすことを確認し、かつ早期修了を推薦する場合、下記の期限までに教員が作成し、学務課に提出します。（様式は、教員がAipoからダウンロード又は学務課から配付）
提出期限 (1) 4月中旬頃 午後5時まで
(2) 9月下旬頃 午後5時まで

4. 学位論文等の提出期限

- (1) 上記3の(1)の提出期限に提出した場合：
論文題目届提出後、5月末頃まで（厳守）（全専攻）
- (2) 上記3の(2)の提出期限に提出した場合：
論文題目届提出後、10月末頃まで（厳守）（比較社会文化学専攻、人間発達科学専攻、ジェンダー学際研究専攻）
論文題目届提出後、11月末頃まで（厳守）（ライフサイエンス専攻、理学専攻、生活工学共同専攻）

【提出書類等について】

- ① 「学位論文」（A4判）…………… 6部
学位論文は、学位授与後、本学附属図書館及び国立国会図書館に納本するために上製本するのでパンチレスファイル（穴を開けずに綴じることができるファイル）で提出すること。
ファイルの表紙及び背表紙には、氏名・専攻名を記載すること。
- ② 「学位論文要約（日本語）」（A4判2,000字程度）《様式1》…………… 6部
- ③ 「参考論文」…………… 6部
参考として添付する場合、印刷公表した学術論文又は学会等で口頭発表した内容の要旨とする。
- ④ 「同意承諾書」（提出論文に共同研究者がいる場合、学位論文をインターネット公表することを含めて、事前に承諾を得ておく必要がある。）《様式6》…………… 各1部
- ⑤ 「博士論文のインターネット公表に関する状況報告書」（学務課で配付）…………… 1部
- ⑥ 「主任指導教員からの意見書」（学務課から提出依頼を行います。）…………… 1部
（注1） 上記①～⑤の各1部は学務課大学院担当に提出すること。
（注2） 上記①～③の各5部は論文審査委員（5名）に直接提出すること。ただし、外部審査委員がいる場合、その分は学務課に提出すること。学務課から郵送します。
（注3） 上記①～③の部数は、審査委員が5名の場合の部数です。5名以上の場合はそれぞれ必要な部数を用意すること。

5. 論文受理決定後の提出書類

論文受理が決定された日（論文審査委員会の設置が認められた日）から10日以内に次の書類を提出すること。具体的な日程は担当者からメールにて連絡します。

- (1) 「学位申請書」（所定の様式、学務課で配付）…………… 1部
- (2) 「学位論文目録」《様式2》…………… 6部
- (3) 「履歴書」《様式3》（押印又はサインが必要）…………… 6部
- (4) 「論文の印刷公表予定」《様式4》…………… 6部
- (5) 「学位論文の外国語（英語）による要旨」《様式5》…………… 6部

（注）(2)～(5)については、各1部ずつまとめてクリップ止めし6セットを作成し、1セットは学務課に提出し、5セットは論文審査委員に直接提出すること。ただし、外部審査委員がいる場合は、その分を学務課に提出すること。

6. 外国語試験

外国語1種類以上の試験に合格しなければならない。

7. 論文審査

設置された論文審査委員会において、指定する日時に論文提出者の出席を求め、論文内容等に関する試問が行われる。

8. 公開発表

論文審査を終了した者には、当該論文に関する公開発表会を課する。公開発表会の開催は、学内掲示及び学生ポータルサイトにて告知する。その際、学位論文題目も掲出するので、学位申請時から題目が変更となった場合は、「学位論文題目変更届」（学務課で配付）にて学務課まで届け出ること。

9. 最終試験

論文審査・公開発表後、論文を中心としてこれに関連する分野について、口答又は筆答で行う。

10. 教授会（代議員会）の審議

学位論文審査終了後、専攻会議において学位論文審査結果を報告する。その際、学位論文の最終稿2部を議場回覧するので、会議報告に間に合うように学務課に提出すること。具体的な日程は担当者からメールにて連絡する。

専攻会議での報告、投票の結果、合格と判定された論文は、代議員会において学位授与の可否について審議される。

11. 審査期間

審査期間は、論文を受理した日（審査委員会設置日）から当該年度末までとする。

12. 学位授与

学長は、前記の報告に基づき、学位を授与すべき者には博士（学術等）の学位を授与し、学位を授与できない者にはその旨を通知する。

原則として3月、9月に学位記授与式を行う。

13. 学位論文の公表

学位を授与された者は、学位を授与された日から1年以内に、その論文（日本語及び外国語の要旨を含む）をインターネット（本学附属図書館の機関リポジトリ「TeaPot」）の利用により公表しなければならない。「TeaPot」に掲載された学位論文の電子データは、国立国会図書館により自動収集され、利用に供される。

なお、やむを得ない事由があり教授会の承認を受けた場合には、当該論文の全文に代えてその内容を要約したのみをインターネット公表することで足りる。ただし、やむを得ない事由が解消した場合には、速やかに学務課にその旨を届け出て、全文をインターネット公表しなければならない。学術雑誌の著作権ポリシーに、刊行から2年後にインターネット公表可能となっている等、やむを得ない事由の解消時期が予め分かっている場合には、当該時期到来時に自動的に公表する。解消時期に変更がある場合は、当該時期到来の1ヶ月前までに学務課にその旨を届け出ること。

また、やむを得ない事由の解消時期が未定の場合、学位授与日から3年以内に現況を学務課（大学院担当）に連絡すること。連絡がない場合、当該時期到達時に自動的に公表する。

<やむを得ない事由の例>

- ① 当該論文に立体形状による表現を含む場合
- ② 著作権や個人情報に係る制約がある場合
- ③ 当該論文が出版刊行されている、または出版刊行が予定されている場合
- ④ 学術雑誌等へ掲載されている、または掲載が予定されている場合
- ⑤ 特許を申請している、または申請が予定されている場合

学位授与後に書籍出版や学術雑誌への投稿を検討している場合は、具体的な出版社や投稿先が未定でも上記③や④に該当するので、該当者は必ず審査委員会に申し出て、教授会の承認を受けること。

上記の事由に該当するか不明な場合は、附属図書館 TeaPot 担当 (repo@cc.ocha.ac.jp, 03-5978-5834) でも相談に応じる。なお⑤については、リエゾン・URA センター (liais-ra@cc.ocha.ac.jp) が相談に応じる。

ただし、学位を授与される前に既にインターネットの利用により公表済の場合には、この限りでない。

当該論文に共同研究者がいる場合、論文をインターネット公表することについて、事前に承諾を得ておかなければならない。

14. 学位論文及び要旨の電子データの作成

学位を授与された論文及び要旨は、長期的な可読性、保存性、アクセシビリティの確保の観点から、以下の条件を満たす形式で作成する必要がある。

- ① 機種あるいはベンダー依存の形式ではないこと。
- ② 外部情報源（外部フォント等）を参照していないこと。
- ③ 暗号化、パスワードの設定、印刷制限等を行わないこと。

具体的には、PDF/A (ISO-19005) 形式で作成すること。学内の学生用コンピュータでも PDF 形式への変換が行える。

PDF ファイルは、学位記授与式の 1 週間前までに下記様式を添えて学務課に提出すること。

- ① 「Tea Pot 登録依頼書」(学務課で配付。自筆署名必要) …………… 1 部
- ② 「博士論文全文複写許諾書」(学務課で配付。自筆署名必要。学位論文の全文を公表できないやむを得ない事由がある場合のみ。) …………… 1 部

15. 学位論文の製本

学位を授与された者の学位論文は本研究科統一装丁で上製本し、附属図書館に納本される。

希望により、個人用製本も受け付ける。

16. 学位の名称

学位を授与された者が、その学位の名称を用いるときは、「お茶の水女子大学」の本学名を学位に付記するものとする。

『お茶の水女子大学 博甲第 号 博士 ()』

17. 学位の取消

学位を授与された者が、不正な方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、教授会の議を経て、学位の授与を取消し、学位記を還付させ、かつ、その旨を公表する。

特に、他の論文から引用する場合、剽窃とならぬようルールを遵守すること。

18. 相談窓口

学位論文審査に関して異議、疑念がある場合は、大学院学生相談窓口担当委員が対応する。

19. 謝礼について

学位審査関係者に対する謝礼は、名目の如何にかかわらず、審査の公正性に対する社会的な疑念を招きやすいと考えられますので、これを辞退いたします。

20. よくある質問

Q 1. 学位論文のインターネット公表のため、著作権処理等、非常に面倒である。

A 1. かつては、多くの学位論文は大学の附属図書館又は国立国会図書館に所蔵されるのみで、研究者が参照しづらい状況にありました。多くの研究者の目に触れるよう、出版や雑誌論文に投稿することは、学位授与者にとっての業績となる一方、負担でもありました。平成 25 年 4 月の学位規則の改正でインターネット公表が義務化されたことにより、国民共有の知的財産である学位論文へのアクセスが容易になり、学位授与者の研究者としての知名度向上も期待できる等、メリットも少なからずあるものと考えております。難しい問題があることも認識しておりますが、インターネット公表を前提に論文執筆を進めてくださいますようよろしくお願いいたします。

Q 2. 学位論文のインターネット公表に際して著作権処理をしているが、多額の著作権料を請求された。大学で負担できないか？

A 2. 法規上、学位を授与された論文をインターネットの利用により公表する義務を負うのは、学位を授与された者となります。従いまして、大学が負担することはできません。ご質問の事例では、「②著作権や個人情報に係る制約がある場合」に該当するものとして教授会の了承を得るか、著作権を外せない図表等の部分を白抜きにして論文を公表することが、現実的な対応と考えます。

- Q 3. 学位を授与された論文を出版しようと思っているが、学位授与時点では具体的な出版の話が無い場合、論文の全文を公表しなければならないか？
- A 3. 出版の意思を持ち、補助金の獲得申請や出版社との交渉等の努力を継続している限り、「④学術雑誌等へ掲載されている、または掲載が予定されている場合」に該当します。例え一時的であるにせよ、オープンアクセスとなっていた論文を有償出版することは、非常に難しいと思われます。出版の意向が多少でもあるならば、学位審査終了までに審査委員会に申し出て「やむを得ない事由」として教授会の了承を得てください。
- Q 4. 著作権法上適法な図表の引用でも、当該分野の慣行では認められていないような場合、どうしたら良いか？
- A 4. 学位規則が改正されてから日が浅く、慣行が法規に追いついていない部分もあるようです。現状では、慣行に従うべきと考えます。ご質問の事例では、該当の図表を白抜きにして公表する対応も考えられます。

(1) 四学期制

お茶の水女子大学は、本学における教育の質をさらに高め、グローバルに活躍できる人材を育成するため、平成26年度から四学期制を導入しました。

① コンセプト

◇学修の質のさらなる向上・学修量の確保

四学期制による約2ヶ月の期間に集中して行う授業は、その記憶が鮮明な状態で次回の授業を受講することができ、学修効果が高まります。また同時に履修する授業科目数が減るため、1科目にかかる授業時間外学修を含めた学修時間が必然的に増え、個々の科目の学修の質向上につながります。

◇学生の主体的な学修活動の促進・本学学生の留学促進

四学期制により5月に第1学期を終えることで、海外の大学のアカデミック・カレンダーとの互換性が高まり、第2学期を使って海外のサマープログラムなどへ参加できます。これによりグローバルな学修機会を得ることができます。また学期単位を短くすることで、1学期まるごとあるいは夏期休業とその前後の学期を組み合わせた期間に、国内外問わず長期インターンシップやボランティア活動などへ参加することも可能になります。

◇国際的交流の促進

海外の大学が夏休みの期間に、海外の大学教員を招聘して多様で刺激に富む授業の開講や、短期外国人留学生を受け入れる可能性も広がるため、国際的な交流の機会が増えます。

② 二学期制と四学期制

二学期制は、1年を前学期と後学期の2学期に分け、それぞれ約4ヶ月を単位として授業が開講されます。四学期制は、これらの学期をさらに2つに分けて、約2ヶ月を単位とした授業が開講されます。

この二学期制と並行して、四学期制が実施されます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
二学期制	前学期				夏期休業	後学期				冬期休業	春期休業	
四学期制	第1学期		第2学期			第3学期		第4学期	第4学期			

③ 授業科目と時間割

二学期制と四学期制の授業科目を組み合わせ履修し、卒業までの単位を修得します。

二学期制の主な授業科目は、前学期・後学期にそれぞれ週1回開講される「半期科目」と、前学期・後学期を通して開講される「通年科目」です。

四学期制の主な授業科目は、「2倍型科目」と「分割科目」です。

2倍型科目は、週2回開講し半期科目の半分の期間で2単位を修得します。同じ日に連続して週2回開講される2倍型科目もあります。

分割科目は、連続した第1学期・第2学期又は、第3学期・第4学期に、週1回開講され、基本的に1単位を修得できます。(1)、(2)など科目名にカッコ付きで表示されているものがこれにあたります。

例) 基礎英語 I(1)

基礎英語 I(2)

1年を通して(1)、(2)、(3)、(4)まである分割科目もあります。

この分割科目は、1単位ごとに独立して履修できる科目と、(1)、(2)の両方を履修しなければ各1単位を修得できない連続性の強い科目があります。

どちらのタイプの科目なのかは、各科目のシラバスで確認できます。

＜基本となる科目の種類＞

- 二学期制 [A] 半期科目—— 前学期、後学期にそれぞれ週1回開講。
 - [B] 通年科目—— 前学期、後学期を通して週1回開講。
 - 四学期制 [C] 2倍型科目—— 第1学期、2学期、3学期、4学期ごとに週2回開講。
 - [D] 分割科目—— 第1学期、2学期、3学期、4学期に週1回開講。
- ① (1)又は(2)を独立して履修できる科目。
 ② (1)及び(2)を連続して履修すべき科目。

四学期制時間割のパターン

四学期制の科目…… C 2倍型科目
 D 分割科目

第1学期							第2学期							第3学期							第4学期						
	月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土		月	火	水	木	金	土
1.2限				D(1)			1.2限				D(2)			1.2限							1.2限						
3.4限	C			C			3.4限							3.4限							3.4限						
5.6限							5.6限							5.6限							5.6限						
7.8限					Ca		7.8限							7.8限							7.8限						
9.10限		Da(1)			Ca		9.10限		Da(2)					9.10限		Da(3)					9.10限		Da(4)				
11.12限							11.12限							11.12限							11.12限						

④ 第2学期を利用した海外留学

第2学期を利用して海外のサマープログラムに参加したい場合、連続性の強い分割科目 [上図D(1)] を第1学期に履修し、第2学期に [D(2)] が未修得であっても、翌年次の第2学期に [D(2)] を履修することにより分割科目 [D(1)、D(2)] の各1単位を修得することができます。科目によっては留学先で取得した単位を、第2学期に未修得だった科目として認定可能な場合もあります。

本学は、在学中に交換留学をはじめとした海外留学を積極的に推進しています。交換留学の募集は毎年、第3学期の10月に行われるため、その前の第2学期に海外語学研修や海外サマープログラムに参加し、留学生活の醍醐味を体験してみることをお勧めしています。また交換留学には一定の語学力が求められますので、交換留学に必要な語学力を身につけるためにも、第2学期を効果的に利用するとよいでしょう。

(2) 授業と休日

休業日は学則「第3節 学年、学期及び休業日」の中に定められています。しかし、いろいろな行事や事由のため臨時に授業が休みとなる場合があります(半日、全日等)、春、夏、冬の休業期間の始めや終わりも必ずしも学則どおりにいかない場合もあります。それらはすべて学務課を通して掲示又は学生ポータルサイトを使ってお知らせします。

二学期制

学期	期間
前学期	4月1日から9月30日まで
後学期	10月1日から翌年3月31日まで

四学期制

学期	期間
第1学期	4月1日から9月30日までの間で別に定める。
第2学期	
第3学期	10月1日から翌年3月31日までの間で別に定める。
第4学期	

授業時間（月曜日～土曜日）

1・2限	9:00 ~ 10:30
3・4限	10:40 ~ 12:10
5・6限	13:20 ~ 14:50
7・8限	15:00 ~ 16:30
9・10限	16:40 ~ 18:10
11・12限	18:20 ~ 19:50

(3) 休講・教室変更・時間割変更

以上の情報はいずれも学外及び携帯電話からもアクセス可能な学生ポータルサイトに掲載されます。ポータルサイトにはその他授業に関する情報が随時掲載されますので、必ず毎日確認するようにしてください。

<http://tw.ao.ocha.ac.jp>

(4) 補講

各学期末に補講期間を設けています。補講の有無については、当該授業で確認することが原則ですが、ポータルサイトに掲載されることもあります。また、交通機関のストライキ・台風等による運休に対する措置休講となった授業の補講については、別途発表します。

(5) 台風等による交通機関の運休及び台風等非常時に対する授業関係措置

休講情報は学生ポータルサイトに逐次掲載します。また、あわせて公式Twitterも確認してください。

① 台風等による交通機関の運休に対する授業休講等の措置について

台風及びストライキ等により次のいずれかの交通機関が運休した場合、以下のとおり授業休講等の措置をします。

- ・JR山手線
- ・東京メトロ丸ノ内線及び有楽町線
- ・東武東上線

授業取扱

運 休 時 間	授業の取扱い
当日午前6時30分までに運転開始	平常どおり
当日始発から午前6時30分まで運休	午前中休講
当日始発から引き続き午前10時まで運休	全日休講

ただし、JR山手線の部分ストライキ（拠点ストライキ）等による運休の場合は平常どおり授業を行います。

② 台風等による気象警報の発表に伴う授業休講等の措置について

台風により、気象庁から東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く。）が発令された場合、授業の取扱いは、次のとおりです。

東京都に「特別警報」または東京23区西部に「暴風警報」（大雨、洪水、大雪、暴風雪を除く）	授業の取扱い
午前6時30分の時点で、警報が発令中の場合	午前中授業休講
午前10時の時点で、警報が発令中の場合	5・6、7・8時限の授業を休講
午後2時の時点で、警報が発令中の場合	9・10時限以降の授業を休講

情報の確認は下記の方法により、確認してください。

・気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

・テレビ・ラジオ等のマスメディアによる確認

③ その他、気象状況の悪化、不測の事態による休講の取扱いについて

また、休講となった授業の補講については、別途措置します。

(6) 公欠等についての取扱い

学校保健安全法に定める感染症（※1）と診断された場合は、他の学生等に感染させてしまう恐れがあります。その場合は、治癒が確認された後に、医師の診断書を学務課に提出してください。授業担当教員に、欠席及び評価に対する配慮を依頼する文書を交付します。

また、教育実習・介護等体験、博物館実習、管理栄養士国家試験受験資格を得るための臨地実習、公認心理師の受験資格を得るために必要な実習、裁判員（※2）に選出された場合の欠席の取扱いは公欠としますので、公欠願を学務課で受け取り、授業担当教員まで提出してください。

※1 学校保健安全法に定める感染症

第一種：エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、特定鳥インフルエンザ

第二種：インフルエンザ（鳥インフルエンザを除く）、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核、髄膜炎菌性髄膜炎

第三種：コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

※2 裁判員制度による召集の場合

該当する学生は、呼出状を学務課に提示（確認後返却）の上、授業を受けられない日時を記入した公欠願の用紙を提出してください。授業担当教員には、学務課から当該学生について連絡をし、履修上の配慮を依頼します。なお、定期試験期間中の場合は、追試験の対象とします。

4 単位制

各授業科目の単位は以下に述べるように、教室における学修だけで成り立っているわけではありません。教室での課題に対するレポート作成、予習・復習などの学修時間が含まれています。

この考え方は、下記の「1単位の基準」に基づくもので、このことを理解したうえで、実り多い履修を心がけてください。

(1) 単位の基準

〔1単位の基準〕

各授業科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準として、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとなっています。

◇講義、演習については、15時間の授業をもって1単位とします。

◇実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とします。

(2) 既修得単位の認定（大学院学則第17条）

- 1) 本学大学院に入学する前に、他大学等の大学院において修得した単位を、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。
- 2) 上記により認定された単位は、博士前期課程にあつては10単位、博士後期課程にあつては4単位を限度として、それぞれ修了単位数に算入することができる。

ただし、生活工学共同専攻（前期課程）は4単位までとする。

- 3) 既修得単位の認定を受けようとする場合は、次の書類を添えて前学期履修登録期間内に通年、前・後学期共に該当する科目について学務課大学院担当へ提出すること。

① 他大学等において修得した単位等に係る認定願（別記様式1）【P.45参照】

② 成績証明書又は単位修得証明書

③ 開講科目、シラバス等授業内容がわかるものの写し

(3) 他大学大学院の授業科目の履修（大学院学則第16条）

- 1) 単位互換協定を締結している他大学大学院の授業科目を履修し修得した単位を、本学大学院の授業科目の履修により修得したものとみなすことがある。
- 2) 上記により認定された単位は、博士前期課程にあつては10単位、博士後期課程にあつては4単位を限度として、それぞれ修了単位数に算入することができる。

（「1. 大学院の教育課程」博士前期課程、博士後期課程それぞれの修了要件を参照のこと。）

- 3) 単位互換協定を締結している他大学の大学院は、次のとおりである。

本学	締結先大学 大学院研究科名	
比較社会文化学専攻	東京大学	人文社会系研究科（アジア文化研究専攻中国語中国文学専門分野）
人間発達科学専攻 ジェンダー社会科学専攻 ジェンダー学際研究専攻	東京大学	教育学研究科
全 専 攻	東京大学	理学系研究科、数理科学研究科、情報理工学系研究科
理 学 専 攻	東京大学	総合文化研究科（広域科学専攻相関基礎科学系）
全 専 攻	東京医科歯科大学	医歯学総合研究科
全 専 攻	東京工業大学	理工学研究科、生命理工学研究科、 総合理工学研究科、情報理工学研究科、社会理工学研究科
全 専 攻	東京藝術大学	音楽研究科
全 専 攻	東京外国語大学	総合国際学研究科
全 専 攻	東京海洋大学	海洋科学技術研究科

本学	締結先大学 大学院研究科名
全 専 攻	筑波大学 システム情報工学研究科
全 専 攻	奈良女子大学 人間文化総合科学研究科
全 専 攻	日本女子大学 家政学研究科、文学研究科、理学研究科、人間社会研究科、人間生活学研究科
ライフサイエンス専攻 理 学 専 攻	中央大学 理工学研究科（数学専攻、物理学専攻、 応用化学専攻、情報工学専攻、生命科学専攻）
全 専 攻	東京女子医科大学 医学研究科
全 専 攻	学習院大学 自然科学研究科
全 専 攻	北里大学 薬学研究科
比較社会文化学専攻 ライフサイエンス専攻 理 学 専 攻	首都大学東京 理工学研究科（生命科学専攻）
全 専 攻	総合研究大学院大学 文化科学研究科（博士後期課程のみ）、物理科学研究科、高エネルギー加速器 科学研究科、複合科学研究科、生命科学研究科、先導科学研究科
全 専 攻	慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科
全 専 攻	情報セキュリティ 大学院大学 情報セキュリティ研究科
ライフサイエンス専攻 理 学 専 攻	早稲田大学大学院 先進理工学研究科
ライフサイエンス専攻 理 学 専 攻 生 活 工 学 共 同 専 攻	芝浦工業大学大学院 理工学研究科

※単位互換できる科目は各大学で指定されている。これ以外の科目は受講できない。

- 4) 他大学大学院の授業科目を履修する場合は、指導教員の許可を得て、派遣学生申請書（別記様式2）【P. 46】を学務課大学院担当へ提出すること。履修登録を前学期にまとめて行う研究科と、前学期と後学期に分けて受け付ける研究科があるので、学務課の掲示板で確認すること。
- 5) 履修の可否は、学務課より連絡する。
- 6) 履修登録後の取消しはできないので、注意すること。

(4) 副専攻プログラム

大学院では専門性を深めることはもちろんですが、同時に視野を広げることも重視しています。そのために、各専攻の専門教育の充実を図るだけでなく、領域横断的な副専攻プログラムを設けています。詳細は以下のとおりです。

博士前期課程の学生は、全ての副専攻プログラムを履修できますが、博士後期課程の学生が履修できるのは、コア・サイエンス・ティーチャー（CST）プログラム、日本文化論プログラム、SHOKUIKUプログラムに限られます。グローバル理工学プログラムを履修できるのは、博士課程教育リーディングプログラムの履修生として選抜された者に限られますが、当該副専攻プログラムで開講される科目は、一部の科目を除いて全ての課程、専攻に所属する学生が履修できます。

ただし、生活工学共同専攻学生（前期課程）は「グローバル理工学プログラム」を履修することができません。

1) 「男女共同参画リソース・プログラム」の概要

「男女共同参画リソース・プログラム」は、人文社会科学系だけでなく自然科学系、工学系の研究を主専攻とする大学院生にも、国際的、かつジェンダー視点に立った男女共同参画社会の実現に資する能力を育成することを目的としている。

国連も推進しているように、男女共同参画社会の育成は、21世紀の国際社会の課題であり、とりわけ、幅広い視野に立ち、様々な分野で日本社会及び国際社会で活躍する女性の人材育成が期待されている。

そのため「男女共同参画リソース・プログラム」では、男女共同参画アドバイザーや各地の男女共同参画センター及び女性センターの専門員や管理職、JICAなどの国際機関の女性に関わる案件の専門家など実務家育成にも資することを目指している。さらに、研究者であれば、大学及び研究機関での男女共同参画やセクシュアル・ハラスメントに関する見識のある人材を、文化マネジメント専従の専門家に対しては、ジェンダー視点からのアイデアによる企画展示ができる人材を、そして企業においては、広く人事・キャリア形成のアドバイザーや男女共同参画の視点で企画・運営、そして製品・サービスの研究・開発ができる人材を育成することを目指している。

① 授業科目について

以下の科目表の授業科目の中から、「男女共同参画リソース・プログラム」に必要な科目が履修できる。

② 履修方法、履修条件、修了要件単位、修了証書

・「男女共同参画リソース・プログラム」を副専攻とする大学院生は、その旨を学務課に届け出て、本プログラムの履修

を行なう。

- ・大学院生は、主任指導教員と相談のうえ、必要な場合は、「男女共同参画リソース・プログラム」の副専攻指導教員を、当該教員の同意を得た上で決定し、学務課に届ける。
- ・大学院生は、主任指導教員と相談して、「男女共同参画リソース・プログラム」科目群の中から、履修科目を選択する。
- ・「男女共同参画リソース・プログラム」科目群の履修によって、必修2単位、選択必修4単位、選択科目6単位の合計12単位以上の単位を修得した大学院生に、「男女共同参画リソース・プログラム」修了証書を授与する。

男女共同参画リソース・プログラム科目表

人間文化創成科学研究科
博士前期課程

★ 必修科目（文系、理系から1つ）

◎ 選択必修科目

○ 選択科目

※ コース所属学生のみ履修可

比較社会文化学専攻

授業科目	単位数	
日本語日文学コース		
日本近代文学特論	2	◎
日本近代メディア研究特論	2	○
日本近代文学演習	2	◎
日本近代メディア研究演習	2	○
アジア言語文化学コース		
近代中国語圏文学特論	2	◎
近代中国語圏文学演習	2	○
現代中国語圏文学特論	2	◎
現代中国語圏文学演習	2	○
英語圏・仏語圏文化学コース		
英語圏言語文化特論	2	◎
英語圏言語文化演習	2	○
英文学特論（批評研究）	2	◎
英文学特論（作家研究）	2	○
米文学特論（批評研究）	2	◎
米文学演習（作家研究）	2	○
米文学特論（表象研究）	2	◎
米文学演習（作品研究）	2	○
日本語教育コース		
言語分析学演習	2	○
応用日本語学特論	2	○
多文化間心理教育学特論	2	◎
多文化間心理教育学特論演習	2	◎
思想文化学コース		
倫理想史資料演習（理論）	2	◎
倫理想史資料演習（応用）	2	◎
科学哲学特論	2	○
科学史・科学社会学特論	2	○
倫理学資料演習（理論）	2	○
倫理学資料演習（応用）	2	○

授業科目	単位数	
歴史文化学コース		
日本社会史特論	2	○
歴史文化学特論	2	○
西洋美術史理論特論（近代）	2	◎
西洋美術史理論特論（現代）	2	◎
西洋美術史特論（近代）	2	◎
西洋美術史特論（現代）	2	◎
生活文化学コース		
日本服飾文化論	2	◎
日本服飾文化論演習	2	○
西洋服飾文化論特論	2	◎
西洋服飾文化論特論演習	2	○
舞踊・表現行動学コース		
舞踊芸術学特論	2	○
現代スポーツ論特論	2	○
舞踊表現学特論	2	◎
舞踊表現学特論演習	2	◎
音楽表現コース		
音楽学特論	2	○
音楽文献資料論	2	○
音楽文化史研究	2	◎
音楽文化史研究演習	2	◎

人間発達科学専攻

授業科目	単位数	
教育科学コース		
教育史演習（近代）	2	◎
教育史演習（現代）	2	○
教育開発論特論（理論）	2	◎
教育開発論特論（実践論）	2	○
学校社会学	2	◎
学校社会学演習	2	○
心理学コース		
発達心理学特論	2	◎
発達心理学演習	2	○
人格発達論	2	◎
人格発達演習	2	○
発達臨床心理学コース		
発達臨床心理学特論	2	◎
心理療法特論※	2	◎
障害臨床心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	○
臨床心理学特論Ⅰ※	2	○
臨床心理学特論Ⅱ※	2	○
司法・犯罪臨床心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	○
応用社会学コース		
社会集団論基礎演習	2	○
社会意識論基礎演習	2	◎
社会意識論応用演習	2	◎
社会福祉論	2	◎
社会学基礎論	2	○
保育・児童学コース		
比較教育文化特論	2	◎
比較教育文化演習	2	◎
保育実践学特論	2	○
保育学特論	2	○
専攻共通科目		
社会政策論演習	2	◎

ジェンダー社会科学専攻

授業科目	単位数	
専攻共通科目		
家族関係論	2	◎
家族関係学演習	2	○
消費者問題論	2	◎
消費者問題演習	2	○
生活政治論	2	○
生活経済論	2	◎
生活経済論演習	2	○
法女性論	2	◎
法女性論演習	2	○
生活福祉論	2	○
生活法社会論	2	○
労働と社会政策	2	◎
地理情報論	2	◎
地理情報論演習	2	○
社会環境学	2	◎
社会環境学演習	2	○
地域経済論	2	◎
地域経済論演習	2	○
地域調査方法論	2	○
地域調査方法論演習	2	○
地域社会文化論	2	◎
地域社会文化論演習	2	○
社会開発論	2	◎
社会開発論演習	2	○
国際政治経済論	2	◎
国際政治経済論演習	2	○

授業科目	単位数	
ジェンダー文化論	2	○
開発人類学	2	○
開発地域文化論	2	◎
開発地域文化論演習	2	○
労働経済論演習	2	○
開発経済学	2	◎
グローバル政治経済論	2	◎
グローバル政治経済論演習	2	○
開発研究実践論	2	◎
開発研究実践論演習	2	○
フェミニズム理論の争点	2	◎
フェミニズム理論の争点・演習	2	○
ジェンダー基礎論	2	◎
男女共同参画社会論研究	2	◎
ジェンダー立法過程論	2	★(文系)
ガバナンスとジェンダー	2	★(理系)
セクシュアリティ論	2	○
社会保障とジェンダー	2	◎
ジェンダー統計論演習	2	◎
ジェンダー学際共同演習Ⅰ	2	○
ジェンダー学際共同演習Ⅱ	2	○
ジェンダー学際共同演習Ⅲ	2	○
ジェンダー学際共同演習Ⅳ	2	○
研究方法論コースワーク（量的調査法）	2	○
研究方法論コースワーク（質的調査法）	2	○
研究方法論コースワーク（フィールドワーク）	2	○

ライフサイエンス専攻

授業科目	単位数	
アカデミック女性リーダーへの道	2	○
生活人類学特論	2	◎
健康医学特論	2	◎
科学哲学特論	2	○
科学史・科学社会学特論	2	◎
トランス・サイエンス論	2	◎
生命倫理学特論	2	◎
ゲノム医学特論	2	◎

理学専攻

授業科目	単位数	
アカデミック女性リーダーへの道	2	○
理学総論	2	○
サイエンス・コミュニケーション論	2	◎
科学哲学特論	2	○
科学史・科学社会学特論	2	◎
トランス・サイエンス論	2	◎
生命倫理学特論	2	◎
ゲノム医学特論	2	◎

履修概要

Ⅱ

4

単位制

2) 「コア・サイエンス・ティーチャー (CST) プログラム」の概要

CST副専攻では、小学校及び中学校の理科に熟達し、児童生徒の観察・実験の指導や自由研究の指導、そして地域の教育資源等を生かした教材開発、さらには教員研修を実施できる総合的な理系人材を養成します。そのために以下の7科目を開講します。なおこれらの授業は、小学校と中学校理科の接続や、豊富な実験実習や先端的なトピックスを含みます。

【科目群】

博士前期課程

- ・科学教育基礎 (必修・2単位・通年)
- ・科学教育特別研究 (必修・4単位・通年不定期)
- ・科学教育教材研究 (必修・2単位・通年不定期)
- ・サイエンス・コミュニケーション論 (選択必修・2単位・前期)
- ・科学教育 I (選択必修・2単位・通年不定期)
- ・科学教育 II (選択必修・2単位・通年不定期)

博士後期課程

- ・CST総合研究 (必修・3単位・通年不定期)

【履修の方法と要件・修了証書の発行】

- ・通常の履修手続きに加え、指導教員の許可を得て、「コア・サイエンス・ティーチャー (CST) プログラム」受講申込書を学務課まで提出してください。本プログラムを履修できるのは本学の大学院に所属し、教職課程を修了または履修中の学生に限られます。
- ・博士前期課程の学生は、必修科目 (計8単位)、および選択必修科目 (2単位) の計10単位を修得すると、「お茶の水大学女子CST認定証」が授与されます。
- ・博士後期課程の学生は、博士前期課程に開設された (計8単位)、および選択必修科目 (2単位) の計10単位を修得すると共に、博士後期課程ライフサイエンス専攻共通科目に開設の「CST総合研究」(3単位) を修得すると「お茶の水大学女子CST (上級) 認定証」が授与されます。

【問い合わせ】

サイエンス&エデュケーションセンター・CST副専攻 (03-5978-5370)

千葉和義・堀田のぞみ・吉村和也 tokyo-cst@cc.ocha.ac.jp

3) 「日本文化論プログラム」の概要

このプログラムは、本学大学院生に、多様な日本文化と日本的思惟方法についての広く深い理解を促すために設けられた副専攻プログラムです。

この教育プログラムは、思想、歴史、社会、文学、言語、生活文化、服飾、芸術 (美術、音楽、舞踊) を含めて、日本の過去と現在のハイ・カルチャー及びサブ・カルチャーの広範な領域の対象を、比較論的な観点から学際的かつ総合的に論じる諸科目で構成されます。

本学大学院では、大学院修了後に国際的な場で社会貢献を行う人材 (留学生を含む) の育成に積極的に推進しています。こうした学生が日本文化と日本的思惟方法を理解することは、日本文化理解の適切な国際標準の形成に資するでしょう。さらに、グローバル化に伴う価値一元化傾向に対する批判的視点を積極的に提示し、それを通じて多様な文化の共生を促進する一助となることも期待されます。

【プログラム修了要件】

下記の科目表から合計10単位以上 (★必修科目1科目2単位を含む) を取得した場合に、日本文化論プログラム修了証明書を授与されます。

【受講手続】

「日本文化論プログラム」(副専攻) を履修する学生は、必ず年度初めに学務課に届け出てください。

【問い合わせ先】

神田由築 03-5978-5182 kanda.yutsuki@ocha.ac.jp

(ただし、履修手続については学務課大学院担当に相談してください。)

【科目一覧】

＜共通科目＞ ★必修科目			
★国際日本文化論	2		
＜博士前期課程 比較社会文化学専攻＞ ○選択科目			
○現代日本語学演習	2	○応用日本語学特論(1)	1
○現代日本語学特論	2	○応用日本語学特論(2)	1
○日本近代メディア研究特論	2	○言語習得・教育特論(1)	1
○日本中古文学表現史論	2	○言語習得・教育特論(2)	1
○日本中古文学表現史論演習	2	○言語分析学特論	2
○日本中世文学特論	2	○言語分析学演習	2
○日本中世文学演習	2	○言語教育学特論	2
○日本近代メディア研究演習	2	○言語教育学演習	2
○日本語史特論	2	○多文化間心理教育学特論	2
○日本語資料論特論	2	○多文化間心理教育学演習	2
		○日本語教育学特論	2
		○社会言語学研究特論	2
		○社会言語学研究演習	2
		○倫理想史特論(理論)	2
		○倫理想史特論(応用)	2
		○伝統芸能文化論特論	2
		○伝統芸能文化研究	2
		○伝統芸能文化論演習	2
		○日本社会史演習	2
		○日本社会史料演習	2
		○日本文化史演習	2
		○日本文化史料演習	2
		○日本政治経済史演習	2
		○日本政治経済史料演習	2
		○歴史史料論演習	2
		○比較歴史史料学演習	2
		○民俗文化論特論	2
		○民俗文化論演習	2
＜博士後期課程 比較社会文化学専攻＞ ○選択科目			
○日本言語分析論	2	○言語コミュニケーション論	2
○日本中古言語文化論	2	○日本文化基層論	2
○日本近代言語文化論	2	○日本宗教社会史論	2
○応用言語学研究	2	○日本社会分析論	2
		○日本外交分析論	2
		○日本民俗文化論	2
		○国際日本分析論	2
		○比較日本文学演習	2
		○文化情報伝達論演習	2
		○日本伝統芸能論	2
		○日本伝統芸能論演習	2

4) 「SHOKUIKUプログラム」の概要

- ・ SHOKUIKUプログラムは、学際的基盤に立った食に関する幅広い専門性と実践力をもつ高度専門家の早期育成を目指します。
- ・ 本プログラムは大学院博士課程における文理融合を目指すもので、どの専攻に所属する学生も履修することができます。
- ・ 本プログラムは、食の学問領域を4部門(食教育、食科学、食環境、食文化)に大別し、教育及び研究を進めることを基本とします。
- ・ ベーシックコースとアドバンスコースを設け、ベーシックコースは、博士前期・後期課程のいずれからでも履修できます。
- ・ コース修了者は、「お茶の水女子大学専門食育士」の認定が受けられます(修了要件参照)。

【修了要件(科目一覧参照)】

- ・ ベーシックコースの履修

博士前期課程の学生は、表1の必修科目2単位、表2から6単位以上、表2または表3から2単位以上の合計10単位以上修得することを本コースの修了要件とし、博士後期課程の学生は表1と表2の10単位すべてを修得することを修了要件とします。所定の単位を修得すると本コースの修了証が授与されると共に、「お茶の水女子大学専門食育士」、「Ochanomizu University SHOKUIKU Expert」に認定されます。

- ・ アドバンスコースの履修

ベーシックコース修了を前提とし、博士後期課程ライフサイエンス専攻共通科目に開設の「食育総合研究」3単位として、副論文を作成し、審査に合格することを修了要件とします。所定の単位を修得すると、本コースの修了証が授与されると共に、「お茶の水女子大学専門食育士(上級)」、「Ochanomizu University SHOKUIKU Senior Expert」に認定されます。

表 1：必修科目（2単位）

科目名	担当	単位	開講時期
エビデンス食教育論	藤原葉子 赤松利恵 森光康次郎 香西みどり 須藤紀子 石川朋子	2	前期

表 2：選択必修科目（6単位以上）

科目名	担当	単位	開講時期
食育研究コロキウム	佐藤瑤子	2	2021年度開講 (隔年開講)
食のサイエンス	香西みどり 佐藤瑤子 森光康次郎 村田容常 藤原葉子	2	前期 (隔年開講)
食をめぐる環境論	藤原葉子	2	前期 (隔年開講)
食文化論	香西みどり	2	前期、但し 2021年度も開講 (隔年開講)

表 3：選択科目（2単位以上）：開講時期は学務課又は担当教員に問い合わせてください。

専攻	科目名	担当	単位
ライフサイエンス専攻	環境生理学特論	太田裕治	2
	生体膜代謝論	小林哲幸	2
	分子生物化学特論	小川温子	2
	栄養教育学特論	赤松利恵	2
	調理科学特論	香西みどり	2
	生体制御学特論	馬橋英章	2
	フードサービスマネジメント特論	佐藤瑤子	2
	栄養化学特論	藤原葉子	2
	食品加工貯蔵学特論	村田容常	2
	食品機能学特論	森光康次郎	2
人間発達科学専攻	保育学特論	浜口順子	2
	健康心理学特論	大森美香	2
ジェンダー社会科学専攻	消費者問題論	大森正博	2
比較社会文化学専攻	民俗文化論特論	宮内貴久	2

備考) 本学大学院博士前期・後期課程の在学生及び、単位互換が可能な協定大学大学院の在学生も履修可能とする。

【受講手続】

- ・副専攻の履修を希望する者は、各科目についての通常の履修登録に加え、指導教員の同意を得た上で、「副専攻履修申込書」を提出してください。「副専攻履修申込書」は必修科目の初回講義で配布します。
- ・副専攻を履修せず、科目単位で履修することも可能です。詳細はシラバスを参照してください。

【問い合わせ先】

藤原葉子 ochashoku@cc.ocha.ac.jp（履修手続きについては、学務課で相談してください。）

5) 「グローバル理工学プログラム」の概要

① 目的

本副専攻プログラムは、平成25年度に文部科学省から「博士課程教育リーディングプログラム」に採択されたことに伴い設置しました。

その目的は、日本社会の将来に関わる最重要課題である「女性の社会参画」の要請に応えるため、中でも、物理・数学・情報の基盤力を身につけた理工系女性の活躍を一層推進するべく、グローバルリーダーを養成することにあります。

プログラムは、①異分野基礎教育の基盤力強化コースワーク、②英語・教養・キャリア教育のグローバルリーダー力強化コースワーク、③Project Based Team Study(PBTS)・グローバル研修のチーム力強化コースワークを3本の柱とする学位プログラムとプログラム達成度を評価するシステムで構成され、基礎力とともに俯瞰力・課題解決力、国際性を有する学生の育成を実践しています。博士課程教育プログラムのため、博士前期課程2年間と後期課程3年間を合わせた5年一貫制となっています。

なお、文部科学省プログラムとしては令和元年度で終了しましたが、本学独自の教育プログラムとして引き続き事業

を継続しています。

② 受講対象者、受講条件

学位プログラムとして副専攻を修了できるのは、ライフサイエンス専攻、理学専攻及び生活工学共同専攻（博士後期課程）に所属する学生のうち、試験（initial-QE）により選抜された者のみとします。

なお、この副専攻プログラムで開講する科目は、「グローバル研修Ⅰ」、「グローバル研修Ⅱ」を除いて、全ての専攻に所属する学生が履修することができます。

③ 修了要件

試験（initial-QE）により選抜された学生が、カリキュラムで指定されている科目から合計37単位以上履修して博士後期課程を修了した場合、学位記に副専攻の修了を付記し、当該学生の専門分野によって「博士（理学グローバルリーダー）」等の学位を授与します。

1) イノベーション創成基盤科目 ★：必修科目、◎：選択科目（4単位以上修得）

- ★「Essential Physics for Global Leaders I」 ◎「Essential Physics for Global Leaders II」
- ★「Essential Mathematics for Global Leaders I」 ◎「Essential Mathematics for Global Leaders II」
- ★「Essential Computer Science for Global Leaders I」 ◎「Essential Computer Science for Global Leaders II」
- ◎「Essential Chemistry for Global Leaders I～II」 ◎「グローバル理工学特別実習Ⅰ～Ⅶ」
- ◎「Essential Bioinformatics for Global Leaders I～II」
- ◎「Essential Engineering and Technology for Global Leaders I～II」

2) グローバルリーダー育成に関する科目 △：選択科目（4単位以上修得）、○：選択科目（6単位以上修得）

(1)英語教育

- △「英語アカデミック・プレゼンテーション」 △「プレゼンテーション法研究」
- △「サイエンス・リーディング」 △「サイエンス・ライティング（基礎）」
- △「英語アカデミック・ライティング」

(2)キャリア教育

- 「キャリア開発特論（基礎編）」 ○「キャリア開発特論（応用編）」
- 「キャリア開発特論（ロールモデル編）」 ○「キャリア開発特論（実践編）」

(3)リーダー教育

- 「グローバル女性リーダー特論（基礎編）」 ○「グローバル女性リーダー特論（応用編）」
- 「グローバル女性リーダー特論（ロールモデル編）」 ○「グローバル女性リーダー特論（実践編）」
- 「プロジェクトマネジメント特論」 ○「アウトリーチ実践」

(4)博士課程LA（Liberal Arts）

- 「Essential Philosophy for Global Leaders」 ○「Essential Ethics for Global Leaders」
- 「Essential History for Global Leaders」 ○「Essential Culture and Arts for Global Leaders」

(5)IT技術関連科目

- 「IT活用法Ⅰ」 ○「IT活用法Ⅱ」

(6)その他

- 「グローバル理工学特別講義Ⅰ～Ⅶ」

3) PBTS（Project Based Team Study） ★：必修科目

- ★「Project Based Team StudyⅠ」 ★「Project Based Team StudyⅡ」

4) 研究室ローテーション

- ★：必修科目
- ★「グローバル研修Ⅰ」 ★「グローバル研修Ⅱ」

④ 問い合わせ先

- ・リーディング大学院推進センター (03-5978-5775) leading-ocha@cc.ocha.ac.jp
- 詳細は http://www.dc.ocha.ac.jp/s/g_scitech/

(5) キャリア副専攻

キャリア副専攻は、博士前期課程修了後に就職を希望する学生を対象に、高い専門性を活かすための実践的な就業力を育成することを目的としています。

現代社会は、不確実性が高く、将来の予測が困難であるため、職業生活において求められる知識が高度化、複雑化しています。キャリア副専攻では、世界的に見て、高度な専門性を備え、活躍するリーダーの多くが博士前期課程を修了しているという最近の動向を踏まえて設置しています。

1) 教員

「キャリア副専攻【教員】」は、専修免許状を取得し、博士前期課程修了後に学校において教職としてのキャリアを目指す大学院生を対象としています。教育現場で即戦力となるだけでなく、自分自身も研究テーマをもち、主体的な問題設定を行って、その解決に向け、子どもたちと同僚教師と協働し、よりよい教育を目指して生涯にわたって学び続けることのできる教師を育成することを目的としています。

① 履修科目

「キャリア副専攻【教員】」は、附属学校園や公立学校園と連携した継続的で発展的なインターンシップならびに実践研究を実施することで、教育学や周辺諸科学の理論と教育実践を往還することのできる高度な実践的能力を身につけることを重視しています。表1の必修科目を6単位、表2の選択科目を4単位以上の合計10単位以上を取得することを本副専攻の修了要件とします。開講時期は担当教員にお問い合わせください。

表1 必修科目群 (6単位)

科目名	単位数
人間発達科学専攻共通	
高度教職実践研究 (授業編) *	2
高度教職実践研究 (教育全般編) *	2
高度教職実践入門 *	2

* : 修了に必要な単位に含めることができない。

表2 選択科目群 (4単位以上)

科目名	単位数
人間発達科学専攻共通	
教職リーダーへの道 (ロールモデル編) * (隔年開講)	2
人間発達科学 (教育科学)	
カリキュラム研究論	2
教育方法学 (理論)	2
共通科目	
トランス・サイエンス論	2
IT 活用法 I	2
IT 活用法 II	2
英語プレゼンテーション演習 I *	2
英語プレゼンテーション演習 II *	2

* : 修了に必要な単位に含めることができない。

② 受講手続き、受講にあたっての注意、修了証明書など

【受講手続き】

必修科目群の履修を希望する場合は、各科目についての通常の履修登録に加え、指導教員の許可を得て「キャリア副専

攻【教員】受講申込書を学務課に提出してください。受講申込書を提出し、本副専攻の修了要件を満たした学生には修了証明書を発行します。なお、表2の選択科目群の各科目については、受講申込書を提出しなくても通常の履修登録により受講することができます。

【受講にあたっての注意】

教員免許状を取得していることが、履修のための要件になります。原則として、「高度教職実践研究（授業編）」は博士前期課程1年において附属学校園に配属され、自身が専修免許を取得する予定の教科（幼稚園や小学校の場合、特に専門としたい領域や教科）に関して、各自が主体的にテーマを設定し、授業開発や授業実践、振り返りを行います。「同（教育全般編）」は博士前期課程2年において東京都内の公立学校園に配属され、授業に留まらない学校現場の今日的な諸問題に関して、各自が主体的にテーマを設定し、教室を主なフィールドとして探究します。「高度教職実践研究（授業編）」、「同（教育全般編）」は、原則として希望校種に配属されます。本副専攻の受講申し込みをした人だけが「高度教職実践入門」、「高度教職実践研究（授業編）」、「高度教職実践研究（教育全般編）」を受講できます。

2) 公務員

「キャリア副専攻【公務員】」は、博士前期課程修了後に国家公務員をはじめとする公務員を志す大学院生を対象としています。将来のキャリアにおける中心的職務である政策・社会施策の立案に備えるべく、経済、政策、法制度、英語などの実務的な知識やスキルを習得します。これらの学びを通じて、大学院での専攻に基づいた専門性を実務に活かす実践力を身に付けることを期待しています。キャリア副専攻での学修を通じて、公務員として行政に携わるための幅広い実務的な知識と視点、倫理観を持ち、社会において公の立場として貢献する人材を輩出することを目指しています。

① 履修科目

「キャリア副専攻【公務員】」は、公務員として必要な理論・知識の学修を基本とし、その上で選択科目として行政に関連する領域を選択的に学びます。表1から必修選択科目として4単位以上、表2から選択科目として6単位以上の合計10単位以上を取得することを本副専攻の修了要件とします。なお、必修選択科目群（表1）について、4単位を超えた取得単位は選択科目での取得単位として認めます。

表1 必修選択科目群（4単位以上）

科目名	単位数
共通科目	
行政特論	2
経済政策特論	2
インターンシップ（大学院）*	1
人間発達科学専攻	
政策科学	2
ジェンダー社会科学専攻	
法女性論	2

*：修了に必要な単位に含めることができない。

表2 選択科目群（6単位以上）

科目名	単位	科目名	単位
共通科目		ジェンダー社会科学専攻	
ビジネス英語演習Ⅰ*	2	消費者問題論	2
ビジネス英語演習Ⅱ*	2	社会保障とジェンダー	2
比較社会文化学専攻		ライフサイエンス専攻	
社会言語学研究特論	2	建築設計特論	2
異文化間コミュニケーション特論	2		
人間発達科学専攻		生活工学共同専攻	
社会政策論	2	環境評価学特論	2
		知的財産論	1

*：修了に必要な単位に含めることができない。

② 受講対象者、受講手続き、修了証明書など

【受講対象者】

受講対象者は、原則として大学院博士前期課程および後期課程在学学生です。ただし学部4年生であっても、大学院に進学予定で、修了後に公務員を志望する者は受講できる場合があります。受講を希望する者は、学務課に事前に相談してください。

【受講手続き】

副専攻の履修を希望する場合は、各科目についての通常の履修登録に加え、指導教員の許可を得て「キャリア副専攻【公務員】」受講申込書を学務課に提出してください。受講申込書を提出し、本副専攻の修了要件を満たした学生には修了証明書を発行します。なお、表1 必修選択科目群および表2 選択科目群の各科目については、受講申込書を提出しなくても通常の履修登録により受講することができます。

3) 産学連携

「キャリア副専攻【産学連携】」は、博士前期課程修了後に産業界等においてキャリアを目指す大学院生を対象としています。企業、研究機関等、学外ステークホルダーとの連携による実践的な講義・演習などを通じて、本学が目指す「グローバルリーダーの育成」に必要な資質を身に付けることを目指します。様々なステークホルダーとの協働を通じて、女性が、研究者や技術者をはじめ科学技術イノベーションを担う多様な人材として一層活躍できるように、産学官協創によるイノベーション・エコシステムを構築し、社会をリードしていく人材を育成することを目指します。

① 履修科目

キャリア副専攻【産学連携】は、企業、研究機関等、学外ステークホルダーと連携し、科学技術イノベーションに係る人材として不可欠な知的財産、特許、産学連携、ベンチャー、MTA（Material Transfer Agreement）等について学修するとともに、あらゆるキャリアの基盤となる実践的な能力を身につけることを重視しています。表1の必修科目を4単位、表2の選択科目を6単位以上の合計10単位以上を取得することを本副専攻の修了要件とします。

表1 必修科目群（4単位）

科目名	単位数
産学連携（実践編）	2
キャリア開発特論（基礎編）	2

表2 選択科目群（6単位以上）

	単位数
英語アカデミック・プレゼンテーション	2
プレゼンテーション法研究	1
サイエンス・リーディング	1
サイエンス・ライティング（基礎）	1
英語アカデミック・ライティング	2
キャリア開発特論（応用編）	2
キャリア開発特論（ロールモデル編）	2
キャリア開発特論（実践編）	2
プロジェクトマネジメント特論	2
アウトリーチ実践	2
IT 活用法 I	2
IT 活用法 II	2

② 受講対象者、受講手続き、修了証明書など

【受講対象者】

受講対象者は、原則として大学院博士前期課程在学学生です。

【受講手続き】

副専攻の履修を希望する者は、各科目についての通常の履修登録に加え、指導教員の同意を得た上で、「キャリア副専攻【産学連携】」受講申込書を学務課に提出してください。受講申込書を提出し、本副専攻の修了要件を満たした学生には修了証明書を発行します。なお、表1 必修科目群および表2 選択科目群の各科目については、受講申込書を提出しなくても通常の履修登録により受講することができます。

(6) Advanced Communication Training (ACT) プログラム

学問やビジネスの急速なグローバル化にともない、みなさんには英語の運用能力、特に話したり書いたりすることで自分の考えを発信する能力が強く求められています。特に、在学中に留学を目指しているみなさんは、早期からこのような実践的英語運用力を高めておく必要があります。ACTプログラムは、共通科目である「上級英語コミュニケーション演習Ⅰ～Ⅵ」を核とし、さまざまな実践的な英語科目をプログラムとして提供することで、このようなグローバル化の必要性に応えるものです。

- ・「上級英語コミュニケーション演習Ⅰ」、「同Ⅱ」は、特に留学を目指している学生を想定して開講される科目で、例えば留学における研究計画や研究報告を担当教員の指導の下に英語でまとめ、英語で発表します。
- ・「上級英語コミュニケーション演習Ⅲ」、「同Ⅳ」、「同Ⅴ」、「同Ⅵ」は、国際機関や外資系企業への就職を目指している学生を想定して開講される科目で、担当教員と相談のうえ特定の研究テーマを決め、それについて英語で学び、研究成果を英語で発表します。

ACTプログラムは、これらを含む下記の表の中の授業科目から合計12単位を修得することにより、プログラムの修了証を取得できます。

ACTプログラムへの参加希望者は、履修登録期間中にACTプログラム科目の履修登録を行ってください。プログラム修了証の発行を希望する学生は、各年度の所定の期間に学務課でプログラム修了証明証発行申請を行ってください。

Advanced Communication Training Program

	単位	授業科目	履修条件
CB	2 (選択必修)	上級英語コミュニケーション演習(ESA) I *	定員(30名)に達した場合は選抜を行う 4単位を必ず修得すること
	2 (選択必修)	上級英語コミュニケーション演習(ESA) II *	
	2 (選択必修)	上級英語コミュニケーション演習 III *	
	2 (選択必修)	上級英語コミュニケーション演習 IV *	
	2 (選択必修)	上級英語コミュニケーション演習 V *	
	2 (選択必修)	上級英語コミュニケーション演習 VI *	
	2 (選択)	Special Lectures in Humanities and Sciences I *	なし
	2 (選択)	Special Lectures in Humanities and Sciences II *	
	2 (選択)	Special Lectures in Humanities and Sciences III *	
SB	2 (選択)	上級英語演習 I (R/W) *	定員(30名)に達した場合は選抜を行う
	2 (選択)	上級英語演習 II (R/W) *	
	2 (選択)	上級英語演習 III (L/S) *	
	2 (選択)	上級英語演習 IV (L/S) *	
PT	2 (選択)	英語アカデミック・ライティング A(文系)/B(理系)	定員(30名)に達した場合は選抜を行う
	2 (選択)	英語アカデミック・プレゼンテーション A(文系)/B(理系)	
	2 (選択)	TOEFL対策演習 R/L *	定員(30名)に達した場合は選抜を行う
	2 (選択)	TOEFL対策演習 S/W *	
	2 (選択)	IELTS対策演習 R/L *	
	2 (選択)	IELTS対策演習 S/W *	
PT	2 (選択)	時事英語演習 I *	定員(30名)に達した場合は選抜を行う
	2 (選択)	時事英語演習 II *	
	2 (選択)	ビジネス英語演習 I *	
	2 (選択)	ビジネス英語演習 II *	
	2 (選択)	英語プレゼンテーション演習 I *	
	2 (選択)	英語プレゼンテーション演習 II *	

以上から12単位修得で修了証発行

ESA=English for Study Abroad, CB=Contents-Based, SB=Skill-Based, PT=Practical Training

* : 修了に必要な単位に含めることができない。

(別記様式1)

他大学等において修得した単位等に係る認定願

年 月 日

お茶の水女子大学
大学院人間文化創成科学研究科長 殿

申請者 氏名 印

人間文化創成科学研究科 * (博士前期課程)
(博士後期課程)

専攻
年度入学

学籍番号

住所 〒

電話

大学院学則第17条の規定により単位の認定を受けたいので、関係の証明書を添付の上、下記により申請します。

記

認定を受けようとする科目・単位		認定の対象となる他大学等において修得した科目・単位等		
授業科目名	単位等	授業科目名等	単位等	備考

○ 単位等の修得を行った大学名 _____

○ 単位等の修得を行った期間 _____ 年度 (_____ 年 _____ 月 ~ _____ 年 _____ 月)

指導教員 _____ 印

*印欄は、該当する方を○で囲むこと。

※コピーして使用のこと。

(別記様式2)

派遣学生申請書

年 月 日

お茶の水女子大学
大学院人間文化創成科学研究科長 殿

申請者 氏名

印

人間文化創成科学研究科

* 博士前期課程
 博士後期課程

専攻

年度入学

学籍番号

住 所 〒

電 話 ()

私は、 年度 大学大学院 研究科において下記科目を履修したい
ので、派遣学生として許可願います。

記

科目番号	科目名	教員名	単位等	学期	曜日	時限
	[専攻]					
	[専攻]					

上記科目を履修することを承認します。

年 月 日

指導教員 氏名

印

*印欄は、該当する方を○で囲むこと。

※コピーして使用のこと。

(別記様式3)

特別研究派遣学生申請書

年 月 日

お茶の水女子大学

大学院人間文化創成科学研究科長 殿

申請者 氏名

印

人間文化創成科学研究科

* 博士前期課程
 博士後期課程

専攻

年度入学

学籍番号

住 所 〒

電 話 ()

私は、 年度 大学大学院（研究所等） 研究科において
下記により研究指導を受けたいので、許可願います。

記

派遣先の指導教員職・氏名	
本学指導教員職・氏名	
派 遣 期 間	年 月 日～ 年 月 日
研 究 題 目	

*印欄は、該当する方を○で囲むこと。

※コピーして使用のこと。

5 履修登録

(1) 授業科目の履修

① 履修科目の決定

授業時間割を基礎にして、教員の指導を受け、この冊子の「大学院学則」、「諸資格の取得」、本学 Web ページ内のシラバス (<http://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus>) 及び Web 時間割検索 (<http://tw.ao.ocha.ac.jp/ochatimetable>) を参考に各自の履修科目を決めることになります。

② 履修の手続きについて

履修登録は、学内に設置してあるパソコンから、Web 上で履修登録を行います。この手続きをしないと単位を修得することができませんので注意してください。おおまかな日程は、以下のとおりです。詳細は学生ポータルサイト (<http://tw.ao.ocha.ac.jp/>) 又は学生センター棟教務用掲示板に掲示するので、各自で確認してください。

- ◇第 1 学期・第 2 学期・前学期・通年科目 4 月中旬
- ◇第 3 学期・第 4 学期・後学期科目 10 月上旬

履修登録上の注意点

- ・所定の期日以外、履修登録することはできません。
- ・履修未登録の場合その科目の試験を受けることはできません。
- ・授業に出ているでも単位修得を希望しない場合を聴講といいます。履修申請の際に聴講欄にチェックをしてください。

(2) Web 履修登録マニュアル

① ログイン画面にアクセス

学内にある共用パソコンで「ID」、「パスワード」を入力しログインしてください。次にデスクトップにある「IT Center ポータル」から「Web 履修システム」へと進みます。

(共用の PC はラーニング・コモンズや IT ルーム等にありますが)

ログイン画面へのアクセスは、共用パソコン以外の学内パソコンからもできます。以下の URL を入力してください。

U R L <https://sw.ao.ocha.ac.jp>

② ログイン

- ・認証画面でお茶大アカウントの ID (ユーザー名) とパスワードを入力し、【ログイン】 ボタンをクリックします。(お茶大アカウントは、学生用 WebMail (Office 365) で使用しているものです)
- ・ID、パスワードが間違っている場合は、ログイン画面が再表示されます。

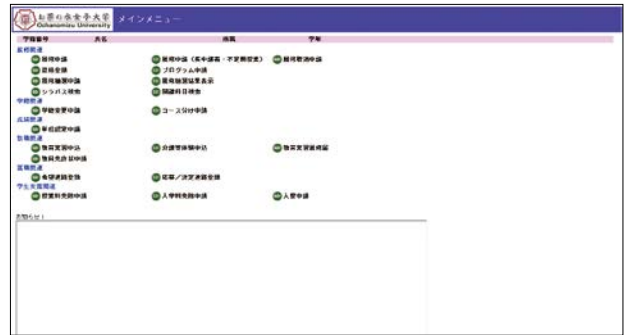
■ログイン画面



③ メインメニュー

- ・ ログインした学生個人の情報が表示されています。
- ・ 各メニューの【Go!】ボタンをクリックすると次画面へ進みます。
- ・ 【お知らせ】欄は毎回必ず確認してください。

■メインメニュー画面



④ 履修申請

- ・ 履修関連-履修申請をクリックします。
- 具体的な操作については、シラバス (<http://tw.ao.ocha.ac.jp/Syllabus/>) に掲載してある履修登録マニュアルを参照してください。

■履修申請画面



⑤ その他

Web履修登録についてのご相談は、学務課にお問い合わせください。

(3) 履修の取消し

実際に授業を受けた結果、履修登録時に思い描いていた授業内容と異なったことなどを理由に履修を取消しなくなった場合に、履修取消しがおこなえる「履修取消し手続き」制度があります。この手続きは所定の手続き期間内に学生自身が学内オンラインを使いWebでの申請を介して行います。

なお、この期間に「履修取消し」した科目に替わる科目の追加登録をしたり、新たな科目を履修登録したりすることはできません。また、この期間外に履修取消しを行うことはできません。ただし、通年科目を前学期中に取り消した場合、その科目と同曜日同時間に開講される後学期の授業科目を登録することはできます。

(4) 聴講

単位取得を前提とせず、知識の修得を目的として受講を希望する場合は、聴講希望科目の担当教員に伝え、聴講許可を得た上で、聴講登録（Web履修登録）をしてください。この場合、授業には出席できますが、単位認定はされません。

6 学修成果

(1) お茶の水女子大学アカデミック・エシックス

詳しくは、本学ホームページhttp://www.ocha.ac.jp/research/menu/ethics_indicator/index.htmlにある研究倫理を参照。

「学ぶ意欲のある全ての女性の真摯な夢の実現の場として存在する」

お茶の水女子大学は140年の歴史を通して、女性が高等教育を受けることのできる唯一の場として、先駆的な女性が多く学び、それぞれに社会をリードしてきました。その精神を今日も受け継ぎつつ、真摯に学ぶ女性を育成し、教育と研究の成果を社会に還元することによって、日本のみならず国際的に社会をリードし未来を創造する女性のためのより高度な教育研究機関となることを志向しています。

学びにおいて、自らの問題関心・研究テーマを、自らの努力によって怠りなく「磨き続ける」ことが求められます。本学では、高度な専門教育と並んでリベラル・アーツ教育を重視しており、学びの中で問題関心を広げ、専門を深め、固有のテーマを発見していくことが求められます。本学で学ぶ学生が、自らの関心において、また自らの責任において、学びを実現することを目標としています。

学びには、責任が伴います。著作権・プライバシーなど、研究活動によって他人の権利を侵害するようなことはあってはなりません。

上記の精神は、日々の皆さんの学修成果を表す場（試験やレポート等）においてもぜひ反映させていただくことを望みます。学問に対して真摯な態度で臨むことは、高等教育を受ける者として何よりも基本的なことです。

大学は、文化を創造し、自然の原理を探究する場です。自らの研究に責任を持ち、お茶大生として先人の業績に敬意を払い、自らの知と新しい文化を創造することを意識してください。

(2) 試験

各学期の終わりに期末試験が設けられています。各科目とも開講学期の終了時に試験を行うのが原則です。

これらの試験は、その期間内の平常の時間割で行われるのが通例です。学生は、事前に教員と必ず打ち合わせ、筆記試験・レポートの別、その日時・場所について承知しておかねばなりません。

なお、試験の際には学生証の提示を求める場合があります。また、遅刻した場合の入室制限及び退室を認める時間を設けることがあります。

不正行為

カンニング等の不正行為は学生にとってあるまじき行為であり、本学では以下のように処します。

I 試験において不正行為を行った者については、理事・副学長（教育担当）は、別に定める手続きにより、次の措置を行います。

(1) 当該学期履修科目の全ての受験科目を無効とする。

(2) 学内に当該措置（措置事例）について告示する。

II 前項の不正行為については、同項に規定する措置のほか、学則に規定する懲戒の対象とします。

追試験

病気その他止むを得ない理由により、期末試験を受けられなかった学生については、担当教員が特に必要があると認めた場合に限り追試験を行うことがあります。

追試験を希望する者は当該学期末試験終了後1週間以内に学務課に「追試験願」及び「欠席理由を証明する書類」を提出しなければなりません。「追試験願」は学務課で配付します。

ただし、修了予定者は前記に関わらず、直ちに申し出ることとします。

(3) レポート・論文提出

成績評価は筆記試験のほかに、レポートや論文提出によって行われる場合もあります。レポート・論文作成においても、以下のような不正行為を絶対に行ってはいけません。

本学では学則第59条に規定する懲戒の対象となります。

<レポート・論文における不正行為の例>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上の文章、図表、写真や絵などを、引用先を明記しないまま、自分のオリジナルであるかのように用いること。
- ・先輩や友人、知人などが作成した文章、図表、写真や絵などを、自分が作成したものとして用いること（レポートの使い回し）。

自分のレポート・論文上で他人のアイデアを盗用することは、筆記試験におけるカンニングと同様の不正行為です。評価する側から見れば、コピー&ペーストによって作成されたレポートや論文かどうかは明らかにわかります。

以下のルールを守ってレポートや論文を作成してください。

<レポート・論文作成のルール>

- ・文献や著書、論文、資料、インターネット上から引用した場合は、引用部分を「」などで明示し、どこからどこまでの部分を引用したのかを明記すること。
- ・自分のレポートや論文で述べる見解や発想が、何らかの文献や著書、論文、資料、インターネットに負っている場合は、それがどこであるかを明らかにすること。

※ 詳細は各授業担当の教員に確認してください。また、図書館にレポートや論文の執筆の方法について書かれた参考書のコーナーがありますので、参考にしてください。

(4) 成績評価

1. 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の学修成果を総合しておこなわれ、100点満点で、60点以上を合格とする素点による評価又はレターグレードA、B、C、Dによる評定で評価されます。成績証明書には合格科目について、alagin（学修状況チェックシステム）による成績通知では不合格科目も含めて記載します。レターグレードと評点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

- A（80点以上）：基本的な目標を十分に達成している。
- B（80点未満～70点以上）：基本的な目標を達成している。
- C（70点未満～60点以上）：基本的な目標を最低限度達成している。
- D（60点未満）：基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。不合格。

履修放棄によって評定できない場合はD（不合格）です。授業科目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により評点が定まります。

A = 90、B = 75、C = 65、D（不合格） = 55

2. GPA制度

本学はGPA（Grade Point Average）を学修成果指標に用いています。この指標は、各学生の授業科目ごとの成績評価（100点満点の素点評価R）を1）の算定方法でグレードポイント（GP）に置き換え、2）のようにそのGPに当該科目の単位数を乗じて、それらを履修数分算し、その値を履修総単位数で割った値です。不合格科目のGPは0、GPA算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格科目があるとGPAの値は大きく損失します。

- 1) $GP = (R-55) / 10$ ただし、 $GP < 0.5$ は $GP = 0.0$ とする。ただし、Rは100点満点の素点評価
 - 2) $GPA = (\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数})$ の総和 / 履修総単位数
- ・履修総単位数には不合格となった科目（GP = 0）の単位数も含まれる。

3. 2つのGPA指標 (f-general GPAとf-strict GPA) の併用

本学ではGPAの機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict GPAとf-general GPA (fはfunctionalの略)、2つの指標を併用します。f-strict GPAは現在、多くの大学で採用されているGPAと実用上、十分な互換性があります。しかし、成績の両端ゾーンについてはとくに米国と我が国の多くの大学がGP (A) の最高点を4.0、合格域の最低点を1.0にしています。これに対して、f-strict GP (A) では最高点が4.5、最低点が0.5になります。そこで他機関との通用性を優先して、対外的に用いるGPAにはf-strict GPが4.0以上の値 (100点満点換算で95点以上) を一律4.0、1.0以下、0.5以上の値を一律1.0にしたf-general GPも適宜用います。一方、学内でGPAを種々の用途に使う場合には (成績の合格域全範囲について原成績を忠実に反映する) f-strict GP (A) を用います。

4. GPA算定の対象科目

他機関での履修 (留学を含む) や本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目や「合格・不合格」による評定で成績がでる科目を除くすべての科目が対象です。

5. GPAの算定期日

GPAの算定は、GPA算定基準日までに確定した成績に基づいて行います。算定基準日は原則、前期は9月15日、後期は3月20日です。前期に算定される科目は、当該年度の前学期、第1学期、第2学期で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。後期に算定される科目は、当該年度の後学期、第3学期、第4学期、通年で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。

6. 成績証明書への記載

成績証明書にはその趣旨説明とともにf-strict GP (A)、f-general GP (A) 両指標を併記します。また、GPA算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とGPA間の整合性を明白にします。

7. 成績評価情報に関する利用について

成績評価は、本学成績評価情報に関する利用ガイドライン等の定めに従い、個人情報保護を徹底した上で、調査・研究あるいは学修支援に利用することがあります。

(5) カラーコードナンバリング [CCNum]

本学では、大学院を含むすべての授業科目について、カリキュラム構成上の位置づけや到達目標に照らした水準のちがいを数値コードとともに色別に明示しています。

数値コード (ナンバリング) は5桁から成り、1桁目が上記の科目の位置づけや内容水準の違いをあらわし、学士課程の授業科目を含め、異なる色分類と数値が図のように対応しています。2、3桁目は大学院の場合、その科目を開講している専攻をあらわしています。4桁目は現在未使用です。5桁目は16進数表記によるその科目の単位数を表しています。

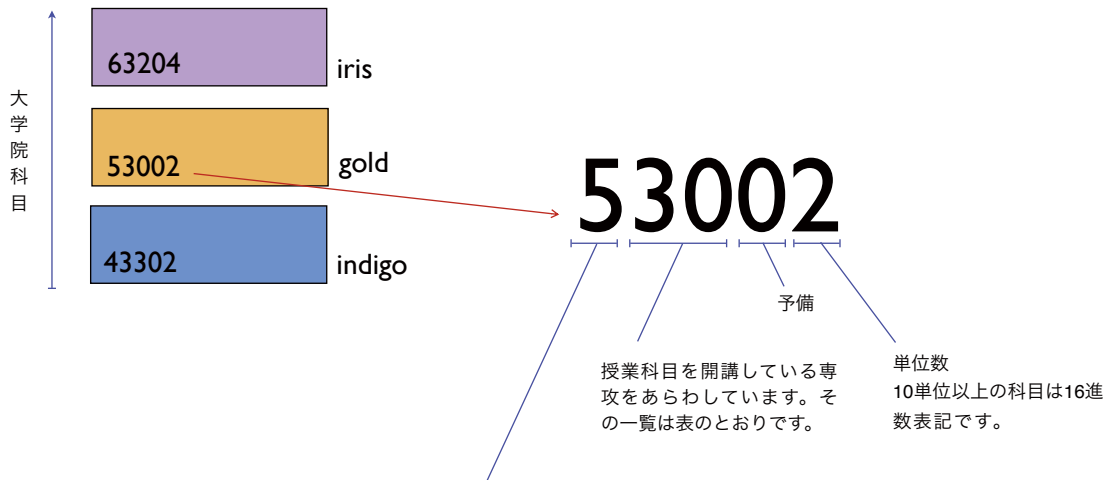
このナンバリングを目安にして、たとえば、科目を開講している専攻を確認したり、博士前期・後期にかかわらず履修できる共通科目か否かを判断するなど、履修計画の立案に役立ててください。

● カラーコードの分類方法

大学院におけるカラーコードの分類は博士前期課程用に設定されている授業科目（カラーコード：インディゴ、ナンバリングの1桁目4）、博士後期課程用に設定されている授業科目（カラーコード：アイリス、ナンバリングの1桁目が6）、前期／後期課程にかかわらず履修できる共通科目（カラーコード：ゴールド、ナンバリングの1桁目が5）の3種類です。

CCN

Color Code Numbering



大学院の授業科目のナンバリング1桁目は4～6のいずれかで、4は博士前期課程の科目、カラーはインディゴ、5は博士課程前後期共通科目、カラーはゴールド、6は博士後期課程の科目、カラーはアイリス。

ナンバリング2, 3桁	大学院 開講専攻
30	共通科目
31	比較社会文化学専攻
32	人間発達科学専攻
33	ジェンダー社会科学専攻
34	ライフサイエンス専攻
35	理学専攻
36	生活工学共同専攻

授業科目一覧

博士前期課程

比較社会文化学専攻

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
日本語日本文学	日本語史特論	2	43102	
	日本語史演習	2	43102	
	日本語資料論特論	2	43102	
	日本語資料論演習	2	43102	
	現代日本語学特論	2	43102	
	現代日本語学演習	2	43102	
	日本語表現論特論	2	43102	
	日本語表現論演習	2	43102	
	日本古典文学特論	2	43102	
	日本上代文学特論	2	43102	
	日本上代文学演習	2	43102	
	日本上代文学表現史論	2	43102	
	日本上代文学表現史論演習	2	43102	
	日本中古文学特論	2	43102	
	日本中古文学演習	2	43102	
	日本中古文学表現史論	2	43102	
	日本中古文学表現史論演習	2	43102	
	日本中世文学特論	2	43102	
	日本中世文学演習	2	43102	
	日本中世文学表現史論	2	43102	
	日本中世文学表現史論演習	2	43102	
	日本近世文学特論	2	43102	
	日本近世文学演習	2	43102	
	日本近世出版文化特論	2	43102	
	日本近世出版文化演習	2	43102	
	日本近代文学特論	2	43102	
	日本近代文学演習	2	43102	
	日本近現代言語表象分析論特論	2	43102	
	日本近代メディア研究特論	2	43102	
	日本近代メディア研究演習	2	43102	
	日本現代文学特論	2	43102	
	日本現代文学演習	2	43102	
	日本近現代詩歌論特論	2	43102	
	日本近現代文学構造分析論演習	2	43102	
	○日本語文化特論	2	43102	
	アジア言語文化学	東アジア比較言語文化論(古典)	2	43102
		東アジア比較言語文化論演習(古典)	2	43102
		中国古典文学思想論	2	43102
		現代中国語圏文学特論	2	43102
		近代中国語圏文学特論	2	43102
		現代中国語圏文学演習	2	43102
		近代中国語圏文学演習	2	43102
		中国古典語学特論	2	43102
		中国古典語学演習	2	43102
		中国古典文献学	2	43102
		東アジア比較言語文化論(近現代)	2	43102
東アジア比較言語文化論演習(近現代)		2	43102	
中国言語表現論演習		2	43102	
現代中国語学演習		2	43102	
中国語教育実践方法論(基礎)		2	43102	
中国語教育実践方法論(応用)		2	43102	
アジア民俗文化論		2	43102	
アジア言語芸術論		2	43102	
○中国言語文化特論	2	43102		
英語圏・仏語圏言語文化学	英文学特論(批評研究)	2	43102	
	英文学演習(作家研究)	2	43102	
	英語圏言語文化特論	2	43102	
	英語圏言語文化演習	2	43102	
	英文学特論(表象研究)	2	43102	
	英文学演習(作品研究)	2	43102	
	英語圏文学表象論	2	43102	
	英語圏文学表象論演習	2	43102	
	英文学特論(ジャンル研究)	2	43102	
	英文学演習(歴史表象研究)	2	43102	
	英語圏テキスト文化論	2	43102	
	英語圏テキスト文化論演習	2	43102	
	米文学特論(批評研究)	2	43102	
	米文学演習(作家研究)	2	43102	
	英語圏批評理論研究	2	43102	
	英語圏批評理論演習	2	43102	
	米文学特論(表象研究)	2	43102	
	米文学演習(作品研究)	2	43102	
	英語圏文学・文化特論	2	43102	
	英語圏文学・文化演習	2	43102	
	英語学特論(文法論)	2	43102	
	英語学演習(形態論)	2	43102	
	英語学特論(統語論)	2	43102	
	英語学演習(統語論)	2	43102	
	英語学特論(語用論)	2	43102	
	英語学演習(語用論)	2	43102	
英語学特論(意味論)	2	43102		

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
英語圏・仏語圏言語文化学	英語学演習(意味論)	2	43102	
	英語学特論(第一言語習得)	2	43102	
	英語学演習(第一言語習得)	2	43102	
	英語コミュニケーション特論	2	43102	
	英語コミュニケーション演習	2	43102	
	対照言語分析特論	2	43102	
	対照言語分析演習	2	43102	
	英語教育方法論研究	2	43102	
	英語教育方法論演習	2	43102	
	第二言語習得論研究	2	43102	
	第二言語習得論演習	2	43102	
	近代仏文学研究	2	43102	
	近代仏文学研究演習	2	43102	
	近代仏文学特論	2	43102	
	近代仏文学特別演習	2	43102	
	現代仏文学研究	2	43102	
	現代仏文学研究演習	2	43102	
	仏語言語表現論	2	43102	
	仏語言語表現論演習	2	43102	
	仏語言語文化論	2	43102	
	仏語言語文化論演習	2	43102	
	仏語圏比較文化論	2	43102	
	仏語圏比較文化論演習	2	43102	
	仏語圏比較社会論	2	43102	
	仏語圏比較社会論演習	2	43102	
	西欧言語芸術論	2	43102	
	西欧言語芸術論演習	2	43102	
	西欧比較文化論	2	43102	
	西欧比較文化論演習	2	43102	
	独語圏文学特論	2	43102	
	独語圏文学演習	2	43102	
	近代独学論	2	43102	
	近代独学演習	2	43102	
	○英語圏・仏語圏言語文化特論	2	43102	
	日本語教育	○応用日本語学研究法実習	2	43102
		日本語教育学研究特論	2	43102
		日本語教育学研究演習	2	43102
		日本語教育学特論	2	43102
		日本語教育学演習	2	43102
		言語教育方法論特論	2	43102
		言語教育方法論演習	2	43102
日本語コミュニケーション特論		2	43102	
日本語コミュニケーション演習		2	43102	
言語コミュニケーション論特論		2	43102	
言語コミュニケーション論演習		2	43102	
日本語教育実習		2	43102	
対照言語学特論		2	43102	
対照言語学演習		2	43102	
第二言語習得特論		2	43102	
第二言語習得演習		2	43102	
言語学習論特論		2	43102	
言語学習論演習		2	43102	
日本語習得論特論		2	43102	
日本語習得論演習		2	43102	
応用日本語学特論(1)		1	43101	
応用日本語学特論(2)		1	43101	
応用日本語学演習(1)		1	43101	
応用日本語学演習(2)		1	43101	
言語習得・教育特論(1)		1	43101	
言語習得・教育特論(2)		1	43101	
言語習得・教育演習(1)		1	43101	
言語習得・教育演習(2)		1	43101	
多文化間心理教育学特論		2	43102	
多文化間心理教育学演習		2	43102	
異文化間コミュニケーション特論		2	43102	
異文化間コミュニケーション演習		2	43102	
多文化間カウンセリング特論		2	43102	
多文化間カウンセリング演習		2	43102	
言語教育リタラシー特論	2	43102		
言語教育リタラシー演習	2	43102		
異文化間教育特論	2	43102		
異文化間教育演習	2	43102		
日本語音声科学特論	2	43102		
言語教育統計学	2	43102		
言語教育統計学演習	2	43102		
質的研究法演習	2	43102		
言語教育学特論	2	43102		
言語教育学演習	2	43102		
社会言語学研究特論	2	43102		
社会言語学研究演習	2	43102		

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
思想文化学	哲学特論(基礎)	2	43102	
	哲学特論(応用)	2	43102	
	哲学原論(基礎)	2	43102	
	哲学原論(応用)	2	43102	
	哲学演習(基礎)	2	43102	
	哲学演習(応用)	2	43102	
	人文学基礎論	2	43102	
	人文学基礎論演習	2	43102	
	形而上学特論	2	43102	
	形而上学演習(基礎)	2	43102	
	形而上学演習(応用)	2	43102	
	科学哲学特論	2	43102	
	科学哲学演習(基礎)	2	43102	
	科学哲学演習(応用)	2	43102	
	倫理思想史特論(理論)	2	43102	
	倫理思想史特論(応用)	2	43102	
	倫理思想史資料演習(理論)	2	43102	
	倫理思想史資料演習(応用)	2	43102	
	倫理学特論(理論)	2	43102	
	倫理学特論(応用)	2	43102	
	倫理学原論(理論)	2	43102	
	倫理学原論(応用)	2	43102	
	倫理学資料演習(理論)	2	43102	
	倫理学資料演習(応用)	2	43102	
	○思想文化学研究法	2	43102	
	歴史文化学	比較日本文化論(理論)	2	43102
		比較日本文化論(応用)	2	43102
		比較日本文化論演習(理論)	2	43102
		比較日本文化論演習(応用)	2	43102
		アジア政治文化特論	2	43102
		アジア政治文化演習	2	43102
		アジア社会文化特論	2	43102
		アジア社会文化演習	2	43102
比較アジア社会文化特論		2	43102	
比較アジア社会文化演習		2	43102	
比較アジア政治文化論		2	43102	
比較アジア政治文化演習		2	43102	
日本社会史特論		2	43102	
日本社会史料特論		2	43102	
日本社会史演習		2	43102	
日本社会史料演習		2	43102	
歴史資料論特論		2	43102	
歴史資料論演習		2	43102	
史料管理論特論		2	43102	
史料管理論演習		2	43102	
歴史史料論		2	43102	
比較歴史史料学		2	43102	
歴史史料論演習		2	43102	
比較歴史史料学演習		2	43102	
伝統芸能文化論特論		2	43102	
伝統芸能文化論演習		2	43102	
伝統芸能文化研究		2	43102	
日本政治経済史特論		2	43102	
日本政治経済史料特論		2	43102	
日本政治経済史演習		2	43102	
日本政治経済史料演習		2	43102	
日本文化史特論		2	43102	
日本文化史料特論		2	43102	
日本文化史演習		2	43102	
日本文化史料演習		2	43102	
西洋中世史特論		2	43102	
西洋中世史料特論		2	43102	
西洋中世史演習		2	43102	
西洋中世史料演習		2	43102	
西洋近世史特論		2	43102	
西洋近世史料特論		2	43102	
西洋近世史演習		2	43102	
西洋近世史料演習		2	43102	
歴史文化学特論		2	43102	
歴史文化学演習		2	43102	
西洋美術史理論特論(近代)		2	43102	
西洋美術史理論特論(現代)		2	43102	
西洋美術史特論(近代)	2	43102		
西洋美術史特論(現代)	2	43102		
西洋美術史理論演習(近代)	2	43102		
西洋美術史理論演習(現代)	2	43102		
西洋美術史演習(近代)	2	43102		
西洋美術史演習(現代)	2	43102		
東洋美術史特論(基礎)	2	43102		
東洋美術史特論(応用)	2	43102		
日本美術史特論(基礎)	2	43102		
日本美術史特論(応用)	2	43102		
東洋美術史演習(基礎)	2	43102		
東洋美術史演習(応用)	2	43102		

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
歴史文化学	日本美術史演習(基礎)	2	43102	
	日本美術史演習(応用)	2	43102	
	○歴史文化学基礎論	2	43102	
	歴史・地理特別演習(基礎)	2	43102	
	歴史・地理特別演習(応用)	2	43102	
	博物館学習論	2	43102	
	博物館活動論	2	43102	
	文化財政策論	2	43102	
	文化マネジメント論演習	2	43102	
	生活文化学	日本服飾文化論	2	43102
		日本服飾文化論特論	2	43102
		日本服飾文化論演習	2	43102
		西洋服飾文化論	2	43102
		西洋服飾文化論特論	2	43102
		西洋服飾文化論演習	2	43102
		民俗文化論特論	2	43102
民俗文化論研究		2	43102	
民俗文化論演習		2	43102	
○比較文化特論		2	43102	
生活造形特論		2	43102	
芸術文化特論		2	43102	
芸術文化特論演習		2	43102	
生活文化特論演習		2	43102	
生活芸術論演習		2	43102	
舞踊・表現行動学		舞踊表現学特論	2	43102
	舞踊表現学演習	2	43102	
	○舞踊芸術学特論	2	43102	
	舞踊方法論演習	2	43102	
	民族舞踊学特論	2	43102	
	民族舞踊方法論演習	2	43102	
	舞踊文化特論	2	43102	
	現代スポーツ論特論	2	43102	
	スポーツマネージメント特論	2	43102	
	スポーツマネージメント演習	2	43102	
	表現行動論特論	2	43102	
	表現行動科学特論	2	43102	
	表現行動科学実験演習	2	43102	
	音楽表現学	演奏学特論	2	43102
		演奏学演習	2	43102
		演奏学表現方法論	2	43102
演奏学表現方法論演習		2	43102	
演奏学表現演習		2	43102	
演奏学舞台上演演習		2	43102	
ピアノ演奏学特論(近代)		2	43102	
ピアノ演奏学特論(現代)		2	43102	
ピアノ演奏学演習		2	43102	
ピアノ表現方法論		2	43102	
ピアノ表現方法論演習		2	43102	
ピアノ表現演習		2	43102	
声楽演奏学特論		2	43102	
声楽演奏学演習		2	43102	
声楽表現方法論		2	43102	
声楽表現方法論演習		2	43102	
声楽表現演習		2	43102	
上演声楽表現演習		2	43102	
器楽演奏法研究		2	43102	
音楽表象文化特論		2	43102	
音楽表象文化演習		2	43102	
音楽学特論		2	43102	
音楽学演習		2	43102	
○音楽研究方法論		2	43102	
○音楽文献資料論	2	43102		
音楽研究方法論演習	2	43102		
音楽文献資料論演習	2	43102		
音楽学特別演習(基礎)	2	43102		
音楽学特別演習(応用)	2	43102		
音楽文化学特別演習(基礎)	2	43102		
音楽文化学特別演習(応用)	2	43102		
音楽史研究	2	43102		
音楽史研究演習	2	43102		
音楽文化史研究	2	43102		
音楽文化史研究演習	2	43102		
音楽文化演習	2	43102		
共通	○比較社会文化総論	2	43102	
	○特別研究	8	43108	
	特別講義(博士前期課程)	2	43102	

○：履修コースの必修科目

◎：専攻の必修科目

人間発達科学専攻

	授業科目	単位数	CCNum
教育科学	教育思想特論	2	43202
	公教育研究特論	2	43202
	教育思想演習	2	43202
	公教育研究演習	2	43202
	近代教育史	2	43202
	現代教育史	2	43202
	教育史演習(近代)	2	43202
	教育史演習(現代)	2	43202
	教育社会学	2	43202
	学校社会学	2	43202
	教育社会学演習	2	43202
	学校社会学演習	2	43202
	教育方法学(理論)	2	43202
	教育方法学(応用)	2	43202
	カリキュラム研究論	2	43202
	カリキュラム研究論演習	2	43202
	教育開発論特論(理論)	2	43202
	教育開発論特論(実践論)	2	43202
	教育開発論演習(理論)	2	43202
	教育開発論演習(実践論)	2	43202
○教育科学研究方法論	2	43202	
心理学	認知システム論	2	43202
	認知システム論演習	2	43202
	認知科学基礎論	2	43202
	認知科学基礎論演習	2	43202
	社会心理学特論(理論)	2	43202
	社会心理学特論(応用)	2	43202
	社会心理学先端研究(理論)	2	43202
	社会心理学先端研究(応用)	2	43202
	発達心理学特論	2	43202
	発達心理学演習	2	43202
	認知発達論特論	2	43202
	認知発達論演習	2	43202
	健康心理学特論	2	43202
	健康心理学演習	2	43202
	臨床心理学特論	2	43202
	臨床心理学演習	2	43202
	発達精神病理学基礎論	2	43202
	発達精神病理学基礎論演習	2	43202
	人格発達論	2	43202
	人格発達演習	2	43202
データ分析演習	2	43202	
○心理学研究法	2	43202	
発達臨床心理学	臨床心理学特論Ⅰ	2	43202
	臨床心理学特論Ⅱ	2	43202
	○カウンセリング特論Ⅰ	2	43202
	カウンセリング特論Ⅱ	2	43202
	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	43202
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	43202
	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	43201
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	43201
	臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)	1	43201
	臨床心理実習Ⅱ	1	43201
	臨床心理特別実習Ⅰ(心理実践実習)	4	43204
	臨床心理特別実習Ⅱ(心理実践実習)	4	43204
	臨床心理特別実習Ⅲ(心理実践実習)	4	43204
	臨床心理学研究法	2	43202
	医療心理学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	43202
	障害臨床心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	43202
	学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	2	43202
	司法・犯罪臨床心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	43202
	産業・労働臨床心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	2	43202
	家族心理学特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	2	43202
心の健康教育(心の健康教育に関する理論と実践)	2	43202	
認知・行動心理学特論	2	43202	
発達臨床心理学特論	2	43202	
心理検査法特論	2	43202	
心理療法特論	2	43202	
心理面接法演習Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	2	43202	
心理面接法演習Ⅱ	2	43202	
応用社会学	社会集団論	2	43202
	社会集団論基礎演習	2	43202
	社会集団論応用演習	2	43202
	社会意識論	2	43202
	社会意識論特論	2	43202
	社会意識論基礎演習	2	43202
	社会意識論応用演習	2	43202
	社会福祉論	2	43202
	社会福祉論演習	2	43202
	○社会学基礎論	2	43202
	現代社会学	2	43202
	現代社会学演習	2	43202
	多変量解析演習	2	43202
家族社会学	2	43202	

	授業科目	単位数	CCNum
保育・児童学	比較教育文化特論	2	43202
	比較教育文化演習	2	43202
	比較子ども社会学特論	2	43202
	比較子ども社会学演習	2	43202
	保育臨床学特論	2	43202
	保育臨床学演習	2	43202
	保育実践論特論	2	43202
	保育実践論演習	2	43202
	保育学特論	2	43202
	保育学演習	2	43202
	保育人間学特論	2	43202
	保育人間学演習	2	43202
	応用発達科学論特論	2	43202
	応用発達科学論演習	2	43202
	保育制度論特論	2	43202
	保育制度論演習	2	43202
	子ども環境論特論	2	43202
	子ども環境論演習	2	43202
	○保育・児童学研究方法論	2	43202
	専攻共通	◎人間発達科学論	2
◎特別研究		8	43208
政策科学		2	43202
社会政策論		2	43202
社会政策論演習		2	43202
*高度教職実践研究(授業編)		2	43202
*高度教職実践研究(教育全般編)		2	43202
*高度教職実践入門		2	43202
*教職リーダーへの道(ロールモデル編)	2	43202	
特別講義(博士前期課程)	2	43202	

○：履修コースの必修科目

◎：専攻の必修科目

*：修了に必要な単位に含めることができない。

ジェンダー社会学専攻

	授業科目	単位数	CCNum
専攻共通	家族関係論	2	43302
	家庭科教育学特論	2	43302
	家族関係学演習	2	43302
	消費者問題論	2	43302
	消費者問題演習	2	43302
	生活福祉論	2	43302
	生活福祉論演習	2	43302
	生活法社会論	2	43302
	生活法社会論演習	2	43302
	生活政治論	2	43302
	生活政治論演習	2	43302
	生活経済論	2	43302
	生活経済論演習	2	43302
	労働と社会政策	2	43302
	労働と社会政策演習	2	43302
	法女性論	2	43302
	法女性論演習	2	43302
	生活政策学特論	2	43302
	生活政策学演習(応用分析)	2	43302
	生活政策学演習(方法論基礎)	2	43302
	生活情報論	2	43302
	自然環境論	2	43302
	自然環境論演習	2	43302
	地域経済論	2	43302
	地域経済論演習	2	43302
	国際政治経済論	2	43302
	国際政治経済論演習	2	43302
	社会開発論	2	43302
	社会開発論演習	2	43302
	地理情報論	2	43302
	地理情報論演習	2	43302
	社会環境学	2	43302
	社会環境学演習	2	43302
地域社会文化論	2	43302	
地域社会文化論演習	2	43302	
地域調査方法論	2	43302	
地域調査方法論演習	2	43302	
ジェンダー関係論	2	43302	
ジェンダー関係論演習	2	43302	
ジェンダー基礎論演習	2	43302	
ジェンダー文化論	2	43302	
ジェンダー文化論演習	2	43302	
開発人類学	2	43302	
開発人類学演習	2	43302	
開発地域文化論	2	43302	
開発地域文化論演習	2	43302	
労働経済論演習	2	43302	
開発経済学	2	43302	
ジェンダー社会経済学	2	43302	
ジェンダー社会経済学演習	2	43302	

	授業科目	単位数	CCNum
専攻共通	グローバル政治経済論	2	43302
	グローバル政治経済論演習	2	43302
	開発研究実践論	2	43302
	開発研究実践論演習	2	43302
	フェミニズム理論の争点	2	43302
	フェミニズム理論の争点・演習	2	43302
	国際移動ジェンダー論	2	43302
	国際社会ジェンダー論	2	43302
	国際社会ジェンダー論演習	2	43302
	ジェンダー論特別講義	2	43302
	◎ジェンダー基礎論	2	43302
	男女共同参画社会論研究	2	43302
	(#1)ジェンダー立法過程論	2	43302
	(#1)ガバナンスとジェンダー	2	43302
	セクシュアリティ論	2	43302
	社会保障とジェンダー	2	43302
	ジェンダー統計論演習	2	43302
	ジェンダー学際共同演習Ⅰ	2	43302
	ジェンダー学際共同演習Ⅱ	2	43302
	ジェンダー学際共同演習Ⅲ	2	43302
	ジェンダー学際共同演習Ⅳ	2	43302
	(#2)研究方法論コースワーク(量的調査法)	2	43302
	(#2)研究方法論コースワーク(質的調査法)	2	43302
	(#2)研究方法論コースワーク(フィールドワーク)	2	43302
	◎ジェンダー社会科学論	2	43302
	◎特別研究	8	43308
	特別講義(博士前期課程)	2	43302

◎：専攻の必修科目

(#1)：専攻の選択必修科目(2つのうち1つを必修とする)

(#2)：専攻の選択必修科目(3つのうち1つを必修とする)

ライフサイエンス専攻

	授業科目	単位数	CCNum
生命科学	分子細胞生物学(植物)	2	43402
	分子細胞生物学(植物)演習	2	43402
	分子細胞生物学(動物)	2	43402
	分子細胞生物学(動物)演習	2	43402
	オルガネラ遺伝学	2	43402
	オルガネラ遺伝学演習	2	43402
	生体膜代謝論	2	43402
	生体膜代謝論演習	2	43402
	分子進化学	2	43402
	集団遺伝学	2	43402
	集団遺伝学演習	2	43402
	環境発生進化学	2	43402
	環境発生進化学演習	2	43402
	動物生理学特論	2	43402
	植物系統進化学	2	43402
	植物系統進化学演習	2	43402
	生命情報学特論	2	43402
	生命情報学演習	2	43402
	分子発生学	2	43402
	分子発生学演習	2	43402
	発生生物学特論	2	43402
	発生生物学演習	2	43402
	進化発生学特論	2	43402
	進化発生学演習	2	43402
	バイオメカニクス特論	2	43402
	神経生物学	2	43402
	神経生物学演習	2	43402
	細胞生理学	2	43402
	細胞生理学演習	2	43402
	植物相関生理学	2	43402
	植物相関生理学演習	2	43402
	植物代謝生理学	2	43402
	植物細胞生物学	2	43402
	植物細胞生物学演習	2	43402
	海洋生物学特論	2	43402
	公開臨海実習	2	43402
	形態発現特論	2	43402
	形態発現演習	2	43402
	顕微計測学特論	2	43402
	生命科学特論(生化学)	2	43402
	生命科学特論(分子遺伝学)	2	43402
	生命科学特論(細胞生物学)	2	43402
	生命科学特論(分子細胞生理学)	2	43402
	生命科学特論(発生生物学)	2	43402
	生命科学特論(代謝生物学)	2	43402
	生命科学特論(植物生理学)	2	43402
	生命科学特論(分子進化学)	2	43402
	分子生物化学特論	2	43402
	糖質科学	2	43402
	糖質科学演習	2	43402
	機能生化学特論	2	43402
	機能生化学演習	2	43402

	授業科目	単位数	CCNum	
生命科学	○生命科学演習	4	43404	
	現代生命科学(生物機能)	1	43401	
	生命科学特殊講義Ⅰ	1	43401	
	生命科学特殊講義Ⅱ	1	43401	
	生命科学特殊講義Ⅲ	1	43401	
	生命科学特殊講義Ⅳ	1	43401	
	生命科学特殊講義Ⅴ	1	43401	
	生命科学特殊講義Ⅵ	1	43401	
	生物学教材開発法研究(基礎)	1	43401	
	人間・環境科学	衛生工学特論	2	43402
		環境工学特論	2	43402
		環境生理学特論	2	43402
		医用福祉工学	2	43402
		生体工学特論	2	43402
		感覚工学特論	2	43402
		生活材料物性特論	2	43402
機能材料特論		2	43402	
生活人類学特論		2	43402	
生活環境史特論		2	43402	
建築計画学特論		2	43402	
建築設計特論		2	43402	
建築環境学特論		2	43402	
居住環境工学特論		2	43402	
建築設計演習Ⅰ		2	43402	
建築設計演習Ⅱ		2	43402	
○人間・環境科学方法論		2	43402	
人間生活工学演習		2	43402	
環境生活工学演習		2	43402	
人間環境科学インターンシップ		2	43402	
建築インターンシップⅠ		2	43402	
建築インターンシップⅡ		2	43402	
現代生活科学(人間環境)		1	43401	
食品栄養科学		食品加工貯蔵学特論	2	43402
	食品加工貯蔵学演習	2	43402	
	調理科学特論	2	43402	
	調理科学演習	2	43402	
	食品機能学特論	2	43402	
	食品機能・分析化学演習	2	43402	
	資源微生物学	2	43402	
	資源微生物学演習	2	43402	
	栄養化学特論	2	43402	
	栄養化学演習	2	43402	
	臨床栄養学特論	2	43402	
	臨床栄養学演習	2	43402	
	公衆栄養学特論	2	43402	
	公衆栄養学演習	2	43402	
	生体制御学特論	2	43402	
	生体制御学演習	2	43402	
	栄養教育学特論	2	43402	
	栄養教育学演習	2	43402	
	生活習慣病医学・疫学	2	43402	
	生活習慣病医学・疫学演習	2	43402	
	フードサービスマネジメント特論	2	43402	
	フードサービスマネジメント演習	2	43402	
	健康医学特論	2	43402	
	食品科学技術特論	2	43402	
食品衛生管理学特論	2	43402		
食健康科学特論	2	43402		
○食品栄養科学研究法	2	43402		
遺伝カウンセリング	カウンセリング概論	2	43402	
	発達臨床心理学	2	43402	
	発達心理学特論	2	43402	
	臨床心理科学論	2	43402	
	臨床心理学	2	43402	
	発達精神病理学特論	2	43402	
	心理臨床基礎論	2	43402	
	臨床遺伝学Ⅰ	2	43402	
	臨床遺伝学Ⅱ	2	43402	
	遺伝統計学	2	43402	
	医療概論	2	43402	
	臨床医学特論	2	43402	
	オルガネラ遺伝学特論	2	43402	
	細胞遺伝学特論	2	43402	
	生殖発生遺伝学特論	2	43402	
	人類遺伝学特論	2	43402	
	基礎人類遺伝学特論	8	43402	
	遺伝学実習	2	43402	
	遺伝学実習(応用)	2	43402	
	遺伝医学	2	43402	
	集団遺伝学特論	2	43402	
	臨床遺伝学特論	2	43402	
	医療倫理学	2	43402	
	○遺伝カウンセリング学	2	43402	
遺伝カウンセリング学演習(基礎)	2	43402		
遺伝カウンセリング学演習(応用)	2	43402		
遺伝カウンセリング準備演習	2	43402		

	授 業 科 目	単位数	CCNum
遺伝カウンセリング	グループ・カウンセリング	1	43401
	障害論	2	43402
	遺伝カウンセリング心理社会論	2	43402
	遺伝カウンセリング研究方法論(基礎)	2	43402
	遺伝カウンセリング研究方法論(応用)	2	43402
	カウンセリング実習	2	43402
	臨床遺伝学各論	2	43402
	臨床遺伝学演習	2	43402
	医療倫理学演習	1	43401
	遺伝医学情報論	2	43402
専攻共通	◎ライフサイエンス論	2	43402
	◎特別研究	10	4340A
	△グローバル理工学研究	6	43406
	特別講義(博士前期課程)	2	43402

○：履修コースの必修科目

◎：専攻の必修科目(但し、グローバル理工学副専攻を履修する学生については、特別研究を除く。)

△：グローバル理工学副専攻を履修する学生のみ履修できる。

理学専攻

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
数学	確率解析特論	2	43502	
	確率解析演習	2	43502	
	確率過程特論	2	43502	
	幾何構造特論	2	43502	
	微分幾何学特論	2	43502	
	微分幾何学演習	2	43502	
	解析的整数論特論	2	43502	
	整数論特論	2	43502	
	整数論演習	2	43502	
	関数方程式特論	2	43502	
	関数方程式演習	2	43502	
	多様体構造特論	2	43502	
	多様体構造演習	2	43502	
	実解析特論	2	43502	
	応用代数学特論	2	43502	
	代数構造特論	2	43502	
	代数構造演習	2	43502	
	位相構造特論	2	43502	
	位相構造演習	2	43502	
	大域幾何学特論	2	43502	
	複素力学系特論	2	43502	
	複素解析学特論	2	43502	
	複素解析学演習	2	43502	
	複素多様体特論	2	43502	
	代数幾何学特論Ⅰ	1	43501	
	代数幾何学特論Ⅱ	1	43501	
	代数幾何学演習	2	43502	
	関数解析特論	2	43502	
	関数解析演習	2	43502	
	代数学特別講義(基礎)	1	43501	
	幾何学特別講義(基礎)	1	43501	
	解析学特別講義(基礎)	1	43501	
	応用数学特別講義(基礎)	1	43501	
	代数学特別講義(発展)	1	43501	
	幾何学特別講義(発展)	1	43501	
	解析学特別講義(発展)	1	43501	
	応用数学特別講義(発展)	1	43501	
	現代数学(幾何)	1	43501	
	数学教材開発法研究(基礎)	1	43501	
	○数学基礎演習	2	43502	
	数理基礎演習	2	43502	
	物理科学	○統計力学特論	2	43502
		量子物理学特論	2	43502
		量子物理学演習	2	43502
		化学物理特論	2	43502
固体物理学特論		2	43502	
固体物理学演習		2	43502	
素粒子特論		2	43502	
素粒子演習		2	43502	
場の理論特論		2	43502	
場の理論演習		2	43502	
極限物性学特論		2	43502	
放射光科学特論		2	43502	
放射光科学演習		2	43502	
宇宙物理学特論		2	43502	
天体物理学特論		2	43502	
天体物理学演習		2	43502	
ソフトマター物理学(高分子・液晶)		2	43502	
相転移特論		2	43502	
相転移演習		2	43502	
複雑系物理学特論		2	43502	
応用磁性物理学特論		2	43502	
応用磁性物理学演習		2	43502	
表面物理特論		2	43502	

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
物理科学	物性物理学特論	2	43502	
	物性物理学演習	2	43502	
	数理物理学特論	2	43502	
	非線形物理学特論	2	43502	
	非線形物理学演習	2	43502	
	凝縮系物理学特論	2	43502	
	ソフトマター物理学特論	2	43502	
	ソフトマター物理学演習	2	43502	
	強相関電子特論	2	43502	
	強相関電子演習	2	43502	
	磁性体特論	2	43502	
	磁性体演習	2	43502	
	現象論的素粒子論	2	43502	
	高エネルギー物理学特論	2	43502	
	高エネルギー物理学演習	2	43502	
	放射線物理学特論	2	43502	
	放射線物理学演習	2	43502	
	スピン物性特論	2	43502	
	スピン物性演習	2	43502	
	物理学特別講義(素粒子・宇宙)	1	43501	
	物理学特別講義(物性)	1	43501	
	物理学特論(素粒子・宇宙)	1	43501	
	物理学特論(物性)	1	43501	
	現代物理学(ミクロとマクロ)	1	43501	
	物理教材開発法研究(基礎)	1	43501	
	化学・生物化学	非線形化学	2	43502
		非平衡系化学	2	43502
		非平衡系化学演習	2	43502
		無機物理化学	2	43502
		溶液化学	2	43502
		溶液化学演習	2	43502
		有機材料化学	2	43502
有機反応化学		2	43502	
有機反応化学演習		2	43502	
糖鎖分子機能認識学		2	43502	
生物超分子化学		2	43502	
生物超分子化学演習		2	43502	
生体分子間相互作用特論		2	43502	
生体機能分子化学		2	43502	
生体機能分子化学演習		2	43502	
量子反応化学特論		2	43502	
量子物性化学特論		2	43502	
量子物性化学演習		2	43502	
反応物理化学特論		2	43502	
反応物理化学演習		2	43502	
有機立体化学		2	43502	
物理有機化学		2	43502	
物理有機化学演習		2	43502	
界面化学特論		2	43502	
界面化学演習		2	43502	
機能性分子化学		2	43502	
超分子化学特論		2	43502	
超分子化学演習		2	43502	
反応化学特論		2	43502	
錯体化学特論		2	43502	
ホスト・ゲスト化学特論		2	43502	
錯体化学演習		2	43502	
ナノ材料化学特論		2	43502	
電気化学特論		2	43502	
電気化学演習		2	43502	
分子科学特論		2	43502	
物質合成化学特論		1	43501	
機能物質化学特論		1	43501	
生物・生命化学特論		1	43501	
構造物質化学特論		1	43501	
物理化学特論		1	43501	
無機化学特論		1	43501	
有機化学特論		1	43501	
分析化学特論		1	43501	
生物化学特論		1	43501	
化学・生物化学特論Ⅰ	1	43501		
化学・生物化学特論Ⅱ	1	43501		
化学・生物化学特論Ⅲ	1	43501		
化学・生物化学特論Ⅳ	1	43501		
化学・生物化学特論Ⅴ	1	43501		
化学・生物化学特論Ⅵ	1	43501		
化学・生物化学特論Ⅶ	1	43501		
化学・生物化学特論Ⅷ	1	43501		
化学・生物化学特論Ⅸ	1	43501		
化学・生物化学特論Ⅹ	1	43501		
○化学・生物化学演習	2	43502		
現代化学(現代生化学)	1	43501		
化学教材開発法研究(基礎)	1	43501		

	授 業 科 目	単位数	CCNum
情報科学	計算機言語特論	2	43502
	計算機言語演習	2	43502
	言語意味論	2	43502
	言語意味論演習	2	43502
	言語情報処理特論	2	43502
	言語情報処理演習	2	43502
	言語メディア特論	2	43502
	言語メディア演習	2	43502
	コンピュータネットワーク特論	2	43502
	コンピュータネットワーク演習	2	43502
	分散処理特論	2	43502
	分散処理演習	2	43502
	コンピュータアーキテクチャ特論	2	43502
	コンピュータアーキテクチャ演習	2	43502
	科学情報システム特論	2	43502
	科学情報システム演習	2	43502
	数値流体力学特論	2	43502
	数値流体力学演習	2	43502
	シミュレーション科学特論	2	43502
	シミュレーション科学演習	2	43502
	ビジュアルコンピューティング特論	2	43502
	ビジュアルコンピューティング演習	2	43502
	メディアコンピューティング特論	2	43502
	メディアコンピューティング演習	2	43502
	ヒューマンインターフェース特論	2	43502
	ヒューマンインターフェース演習	2	43502
	人間機械系特論	2	43502
	人間機械系演習	2	43502
	数理科学特論	2	43502
	数理科学演習	2	43502
	非線形数理特論	2	43502
	非線形数理演習	2	43502
	離散数学特論	2	43502
	離散数学演習	2	43502
	数値解析特論	2	43502
	数値解析演習	2	43502
	応用解析学特論	2	43502
	応用解析学演習	2	43502
	情報解析学特論	2	43502
	情報解析学演習	2	43502
	情報構造特論	2	43502
	情報構造演習	2	43502
	応用数学特論	2	43502
	応用数学演習	2	43502
	数理情報学特論	2	43502
	数理情報学演習	2	43502
	数式処理特論	2	43502
	数式処理演習	2	43502
	バイオインフォマティクス特論	2	43502
	バイオインフォマティクス演習	2	43502
	非従来型計算特論	2	43502
	非従来型計算演習	2	43502
	現代情報科学(インターネット)	1	43501
	情報科学教材開発法(基礎)	1	43501
	○情報科学基礎演習	2	43502
	応用数理基礎演習	2	43502
	◎理学総論	2	43502
	◎特別研究	12	4350C
	△グローバル理工学研究	6	43506
	特別講義(博士前期課程)	2	43502

○：履修コースの必修科目

◎：専攻の必修科目(但し、グローバル理工学副専攻を履修する学生については、特別研究を除く。)

△：グローバル理工学副専攻を履修する学生のみ履修できる。

生活工学共同専攻

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
基礎科目群	◎生活工学概論 A ※	1	43601	
	◎生活工学概論 B	1	43601	
	生活工学物理化学	1	43601	
	生活工学計測論(センサ工学) ※	1	43601	
	生活工学計測論(電子・制御工学)	1	43601	
	生活工学計測論(生活空間) ※	1	43601	
	生活工学材料解析論※	1	43601	
	生活工学特別講義 A ※	1	43601	
	生活工学特別講義 B	1	43601	
	◎研究者倫理	1	43601	
	◎技術者倫理※	1	43601	
	知的財産論	1	43601	
	専門科目群	繊維構造論※	2	43602
		繊維構造論演習※	2	43602
		繊維表面分析論※	2	43602
繊維表面分析論演習※		2	43602	
衣環境材料学※		2	43602	
衣環境材料学演習※	2	43602		
衣住機能材料特論	2	43602		

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
専門科目群	衣住機能材料演習	2	43602	
	衣環境学特論	2	43602	
	衣環境学演習	2	43602	
	生活メディア情報論※	2	43602	
	生活メディア情報論演習※	2	43602	
	データ解析論※	2	43602	
	データ解析論演習※	2	43602	
	衣環境情報処理論※	2	43602	
	衣環境情報処理論演習※	2	43602	
	生活医用福祉工学	2	43602	
	生活生体工学	2	43602	
	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(HCI)	2	43602	
	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション(HCI)演習	2	43602	
	環境人間工学特論※	2	43602	
	環境人間工学演習※	2	43602	
	住環境管理論※	2	43602	
	住環境管理論演習※	2	43602	
	居住空間再生論※	2	43602	
	居住空間再生論演習※	2	43602	
	建築意匠特論	2	43602	
	空間デザイン演習	2	43602	
	建築環境計画特論	2	43602	
	施設デザイン演習	2	43602	
	居住空間環境学特論	2	43602	
	環境デザイン演習	2	43602	
	環境工学特論	2	43602	
	環境工学演習	2	43602	
	環境評価学特論	2	43602	
	環境評価学演習	2	43602	
	人体計測学特論	2	43602	
	人体計測学演習	2	43602	
	第四紀学特論	2	43602	
	専門応用科目群	生活工学デザインワークショップ(LIDEE)	2	43602
		Project Based Learning A ※	2	43602
		Project Based Learning B	2	43602
		生活工学創発演習(基礎) A I ※	1	43601
		生活工学創発演習(基礎) A II ※	1	43601
		生活工学創発演習(発展) A I ※	1	43601
		生活工学創発演習(発展) A II ※	1	43601
生活工学創発演習(基礎) B I		1	43601	
生活工学創発演習(基礎) B II		1	43601	
生活工学創発演習(発展) B I		1	43601	
生活工学創発演習(発展) B II		1	43601	
生活空間特別演習※		1	43601	
生活メディア情報処理演習※		1	43601	
生活工学モデリング演習		1	43601	
研究計画演習		1	43601	
生活工学インターンシップ	2	43602		
住環境学インターンシップ I	2	43602		
住環境学インターンシップ II	2	43602		
◎生活工学特別研究(修士)	10	4360A		

◎：専攻の必修科目

※：奈良女子大学開講科目

共通科目

	授 業 科 目	単位数	CCNum
博士前期課程設置科目	生命倫理学特論	2	53002
	ゲノム医科学特論	2	53002
	英語アカデミック・プレゼンテーション	2	53002
	予測生物学	2	53002
	データサイエンス特論	2	53002
	データサイエンス実践	2	53002
	プレゼンテーション論演習	2	53002
	プレゼンテーション法研究	1	53001
	サイエンス・リーディング	1	53001
	サイエンス・コミュニケーション論	2	53002
	サイエンス・ライティング(基礎)	1	53001
	科学教育企画特論(基礎)	1	53001
	科学教育に生かす倫理思想とカウンセリング技術	1	53001
	英語アカデミック・ライティング	2	53002
	アカデミック女性リーダーへの道(基礎編)	2	53002
	アカデミック女性リーダーへの道(応用編)	2	53002
	アカデミック女性リーダーへの道(ロールモデル編)	2	53002
	アカデミック女性リーダーへの道(実践編)	2	53002
	男女共同参画国際演習 I	2	53002
	男女共同参画国際演習 II	2	53002
	男女共同参画国際演習 III	2	53002
	男女共同参画国際演習 IV	2	53002
	リーダーシップ国際演習 I	2	53002
	リーダーシップ国際演習 II	2	53002
	リーダーシップ国際演習 III	2	53002
	リーダーシップ国際演習 IV	2	53002
	エビデンス食教育論	2	53002
	食育研究コロシアム	2	53002
	食のサイエンス	2	53002
	食をめぐる環境論	2	53002

	授 業 科 目	単位数	CCNum
	食文化論	2	53002
	国際日本文化論	2	53002
	トランス・サイエンス論	2	53002
	科学史・科学社会学特論	2	53002
	行政特論	2	53002
	経済政策特論	2	53002
	産学連携(実践編)	2	53002
	Essential Mathematics for Global Leaders I	2	53002
	Essential Physics for Global Leaders I	2	53002
	Essential Chemistry for Global Leaders I	2	53002
	Essential Bioinformatics for Global Leaders I	2	53002
	Essential Computer Science for Global Leaders I	2	53002
	Essential Engineering and Technology for Global Leaders I	2	53002
	Project Based Team Study I	6	53002
	Essential Mathematics for Global Leaders II	2	53002
	Essential Physics for Global Leaders II	2	53002
	Essential Chemistry for Global Leaders II	2	53002
	Essential Bioinformatics for Global Leaders II	2	53002
	Essential Computer Science for Global Leaders II	2	53002
	Essential Engineering and Technology for Global Leaders II	2	53002
	Essential Philosophy for Global Leaders	2	53002
	Essential Ethics for Global Leaders	2	53002
	Essential History for Global Leaders	2	53002
	Essential Culture and Arts for Global Leaders	2	53002
	IT 活用法 I	2	53002
	IT 活用法 II	2	53002
	グローバル研修 I	1	53001
	アウトリーチ実践	2	53002
	プロジェクトマネジメント特論	2	53002
	グローバル理工学特別講義 I	1	53001
	グローバル理工学特別講義 II	1	53001
	グローバル理工学特別講義 III	1	53001
	グローバル理工学特別講義 IV	1	53001
	グローバル理工学特別講義 V	1	53001
	グローバル理工学特別講義 VI	1	53001
	グローバル理工学特別講義 VII	1	53001
	グローバル理工学特別実習 I	1	53001
	グローバル理工学特別実習 II	1	53001
	グローバル理工学特別実習 III	1	53001
	グローバル理工学特別実習 IV	1	53001
	グローバル理工学特別実習 V	1	53001
	グローバル理工学特別実習 VI	1	53001
	グローバル理工学特別実習 VII	1	53001
	* Special Lectures in Humanities and Sciences I	2	53002
	* Special Lectures in Humanities and Sciences II	2	53002
	* Special Lectures in Humanities and Sciences III	2	53002
	* 日本語夏季演習 I	2	53002
	* 日本語夏季演習 II	2	53002
	* 日本語夏季演習 III	2	53002
	* 日本語夏季演習 IV	2	53002
	* 国際協働研究実習 I	2	53002
	* 国際協働研究実習 II	2	53002
	* Global Research Projects in Humanities and Sciences I	2	53002
	* Global Research Projects in Humanities and Sciences II	2	53002
	* Global Research Projects in Humanities and Sciences III	2	53002
	* インターンシップ(大学院)	2	53002
	* Ocha-Solution Program(応用)	2	53002
	* 科学教育特別研究	4	53004
	* 科学教育基礎	2	53002
	* 科学教育 I	2	53002
	* 科学教育 II	2	53002
	* 科学教育教材研究	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習(E S A) I	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習(E S A) II	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 III	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 IV	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 V	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 VI	2	53002
	* 上級英語演習 I (R/W)	2	53002
	* 上級英語演習 II (R/W)	2	53002
	* 上級英語演習 III (L/S)	2	53002
	* 上級英語演習 IV (L/S)	2	53002
	* TOEFL 対策演習 R/W	2	53002
	* TOEFL 対策演習 S/W	2	53002
	* I E L T S 対策演習 R/L	2	53002
	* I E L T S 対策演習 S/W	2	53002
	* 時事英語演習 I	2	53002
	* 時事英語演習 II	2	53002
	* ビジネス英語演習 I	2	53002
	* ビジネス英語演習 II	2	53002
	* 英語プレゼンテーション演習 I	2	53002
	* 英語プレゼンテーション演習 II	2	53002
	* 「平和と共生」実践演習	2	53002
	* 国際共生社会論フィールド実習	2	53002
	* アートマネジメント特別講義 I	2	53002
	* アートマネジメント特別講義 II	2	53002
	* アートマネジメント特別演習 I	2	53002

博士前期課程設置科目

	授 業 科 目	単位数	CCNum
博士前期課程設置科目	* アートマネジメント特別演習 II	2	53002
	* 未来起点研究 I	2	53002
	* 未来起点研究 II	2	53002
	* 未来起点研究 III	2	53002
博士後期課程設置科目	* 未来起点研究 IV	2	53002
	* 女性活躍推進講座	2	53002
	キャリア開発特論(基礎編)	2	53002
	キャリア開発特論(応用編)	2	53002
	キャリア開発特論(ロールモデル編)	2	53002
	キャリア開発特論(実践編)	2	53002
	グローバル女性リーダー特論(基礎編)	2	53002
	グローバル女性リーダー特論(応用編)	1	53001
	グローバル女性リーダー特論(ロールモデル編)	1	53001
	グローバル女性リーダー特論(実践編)	1	53001
	Project Based Team Study II	8	53008
グローバル研修 II	2	53002	
* プロフェッショナルインターンシップ	1	53001	

*: 修了に必要な単位に含めることができない。

備考 博士前期課程共通科目として単位を修得した科目は履修できない。

博士後期課程

比較社会文化学専攻

	授 業 科 目	単位数	CCNum
国際日本学	日本語分析論	2	63102
	日本語分析論演習	2	63102
	日本語情報論	2	63102
	日本語情報論演習	2	63102
	日本上代言語文化論	2	63102
	日本上代言語文化論演習	2	63102
	日本中古言語文化論	2	63102
	日本中古言語文化論演習	2	63102
	日本中世言語文化論	2	63102
	日本中世言語文化論演習	2	63102
	日本近世言語文化論	2	63102
	日本近世言語文化論演習	2	63102
	日本近代言語文化論	2	63102
	日本近代言語文化論演習	2	63102
	日本現代言語文化論	2	63102
	日本現代言語文化論演習	2	63102
	日本伝統芸能論	2	63102
	日本伝統芸能論演習	2	63102
	応用言語学研究	2	63102
	応用言語学演習	2	63102
	言語コミュニケーション論	2	63102
	言語コミュニケーション論演習	2	63102
	倫理想研究論	2	63102
	倫理想研究論演習	2	63102
	文化思想分析論	2	63102
	文化思想分析論演習	2	63102
	日本文化基層論	2	63102
	日本古代史研究	2	63102
	日本宗教社会史論	2	63102
	日本中世史研究	2	63102
	日本社会分析論	2	63102
	日本近世史研究	2	63102
	日本外交分析論	2	63102
	日本近現代史研究	2	63102
	日本民俗文化論	2	63102
	日本民俗文化論演習	2	63102
	国際日本学研究論	2	63102
	国際日本学研究論演習	2	63102
	国際日本分析論	2	63102
	比較日本文学演習	2	63102
	国際日本分析論演習	2	63102
	文化情報伝達論	2	63102
	文化情報伝達論演習	2	63102
	多文化間心理学研究	2	63102
	多文化間心理学演習	2	63102
	日本考古学特論	2	63102
	日本考古学特論演習	2	63102
	舞踊文化分析論	2	63102
	舞踊文化分析論演習	2	63102
	日本語教育論	2	63102
	日本語教育論演習	2	63102
	第二言語習得論	2	63102
第二言語習得論演習	2	63102	
言語文化論	中国語圏言語文化論	2	63102
	中国語圏言語文化論演習	2	63102
	中国近代文学論	2	63102
	中国近代文学論演習	2	63102
	中国言語芸術・批評論	2	63102
	中国言語芸術・批評論演習	2	63102
	中国民間文化論	2	63102
	中国民間文化論演習	2	63102
	仏語圏思想論	2	63102

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
言語文化論	仏語圏思想論演習	2	63102	
	仏語圏言語芸術論	2	63102	
	仏語圏言語芸術論演習	2	63102	
	仏語圏文化論	2	63102	
	仏語圏文化論演習	2	63102	
	独語圏文化論	2	63102	
	独語圏文化論演習	2	63102	
	イギリス言語文化論	2	63102	
	イギリス言語文化論演習	2	63102	
	テキスト文化論	2	63102	
	テキスト文化論演習	2	63102	
	表象文化論	2	63102	
	表象文化論演習	2	63102	
	理論文化学	2	63102	
	理論文化学演習	2	63102	
	アメリカ言語文化論	2	63102	
	アメリカ言語文化論演習	2	63102	
	日英比較語用論	2	63102	
	日英比較語用論演習	2	63102	
	テキスト言語学	2	63102	
	テキスト言語学演習	2	63102	
	英語教育論	2	63102	
	英語教育論演習	2	63102	
	第二言語(英語)教育論	2	63102	
	第二言語(英語)教育論演習	2	63102	
	文法理論	2	63102	
	文法理論演習	2	63102	
	形式意味論	2	63102	
	形式意味論演習	2	63102	
	第一言語習得論	2	63102	
	第一言語習得論演習	2	63102	
	比較社会論	西洋政治思想史論	2	63102
		西洋政治思想史論演習	2	63102
		基礎概念論	2	63102
		比較概念論演習	2	63102
		比較思想論	2	63102
		比較思想論演習	2	63102
		認識論・知識の哲学	2	63102
認識論・知識の哲学演習		2	63102	
比較アジア論		2	63102	
アジア歴史文化研究		2	63102	
イスラム社会論		2	63102	
イスラム歴史文化研究		2	63102	
社会的ネットワーク論		2	63102	
西洋中世史研究		2	63102	
西洋政治社会論		2	63102	
西洋近世史研究		2	63102	
比較スポーツマネジメント論		2	63102	
比較スポーツマネジメント論演習		2	63102	
文化構造論		2	63102	
文化構造論演習		2	63102	
表象芸術論	比較芸術論	2	63102	
	比較芸術論演習	2	63102	
	西洋美術論	2	63102	
	西洋美術論演習	2	63102	
	西洋服飾論	2	63102	
	西洋服飾論演習	2	63102	
	服飾文化資源論	2	63102	
	服飾文化資源論演習	2	63102	
	比較文化論	2	63102	
	比較文化論演習	2	63102	
	比較舞踊論	2	63102	
	比較舞踊論演習	2	63102	
	舞踊表現論	2	63102	
	舞踊表現論演習	2	63102	
	民族舞踊論	2	63102	
	民族舞踊論演習	2	63102	
	音楽理論	2	63102	
	音楽理論演習	2	63102	
	音楽表象論	2	63102	
	音楽表象論演習	2	63102	
	音楽文化論	2	63102	
	音楽文化論演習	2	63102	
	声楽表現論	2	63102	
	声楽表現論演習	2	63102	
	器楽演奏論	2	63102	
	器楽演奏論演習	2	63102	
	表象芸術論	2	63102	
	博物館活動論	2	63102	
博物館活動論演習	2	63102		
専攻共通	比較社会文化研究報告(基礎)	1	63101	
	比較社会文化研究報告(発展)	1	63101	
	比較社会文化論文指導	2	63102	
	特別講義(博士後期課程)	2	63102	

◎：専攻の必修科目

人間発達科学専攻

	授 業 科 目	単位数	CCNum
教育科学	カリキュラム論	2	63202
	カリキュラム論演習	2	63202
	教育社会学論	2	63202
	教育社会学方法論演習	2	63202
	教育史論	2	63202
	教育史論演習	2	63202
	比較教育思想史論	2	63202
	比較教育思想史論演習	2	63202
	国際教育開発論	2	63202
	国際教育開発論演習	2	63202
心理学	発達心理学先端研究	2	63202
	発達心理学先端研究演習	2	63202
	認知科学論	2	63202
	認知科学論演習	2	63202
	メディア心理学	2	63202
	メディア心理学演習	2	63202
	発達精神病理学	2	63202
	発達精神病理学演習	2	63202
	健康行動論	2	63202
	健康行動論演習	2	63202
発達臨床心理学	臨床心理学研究論(基礎)	1	63201
	臨床心理学研究論(発展)	1	63201
	青少年臨床論	2	63202
	青少年臨床論演習	2	63202
	生涯発達臨床心理学	2	63202
	生涯発達臨床心理学演習	2	63202
	コミュニティ心理学特論	2	63202
	コミュニティ心理学演習	2	63202
	人格システム論	2	63202
	人格システム論演習	2	63202
社会学・社会政策	障害臨床論	2	63202
	障害臨床論演習	2	63202
	社会科学方法論	2	63202
	社会科学方法論演習	2	63202
	社会福祉政策論	2	63202
	社会福祉政策論演習	2	63202
	社会コミュニケーション論	2	63202
	社会コミュニケーション論演習	2	63202
	家族変容論	2	63202
	家族変容論演習	2	63202
保育・児童学	比較法社会論	2	63202
	比較法社会論演習	2	63202
	生活者環境論	2	63202
	生活者環境論演習	2	63202
	幼児教育論	2	63202
	幼児教育論演習	2	63202
	教育文化論	2	63202
	教育文化論演習	2	63202
	保育関係論	2	63202
	保育関係論演習	2	63202
専攻共通	人間発達科学研究報告(基礎)	1	63201
	人間発達科学研究報告(発展)	1	63201
	人間発達科学論文指導	2	63202
	特別講義(博士後期課程)	2	63202
	社会政策総論	2	63202
	社会政策各論	2	63202

◎：専攻の必修科目

ジェンダー学際研究専攻

	授 業 科 目	単位数	CCNum
ジェンダー論	ジェンダー史論	2	63302
	ジェンダー史論演習	2	63302
	ジェンダー政治経済学	2	63302
	ジェンダー政治経済学演習	2	63302
	家族論	2	63302
	家族論演習	2	63302
	男女平等政策論	2	63302
	男女平等政策論演習	2	63302
	比較家族法論	2	63302
	比較家族法論演習	2	63302
	地域開発論	2	63302
	地域開発論演習	2	63302
	地域分析論	2	63302
	地域分析論演習	2	63302
	地域研究論	2	63302
	地域研究論演習	2	63302
	労働論	2	63302
	労働論演習	2	63302
	生活経済論特論	2	63302

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
ジェンダー論	生活経済論特論演習	2	63302	
	比較文化ジェンダー論	2	63302	
	比較文化ジェンダー論演習	2	63302	
	フェミニスト経済学	2	63302	
	フェミニスト経済学演習	2	63302	
	社会保障論特論演習	2	63302	
	人口論演習	2	63302	
	政治思想史特論	2	63302	
	政治思想史特論演習	2	63302	
	比較政治論	2	63302	
	比較政治論演習	2	63302	
	文化変容論	2	63302	
	文化変容論演習	2	63302	
	国際協力論特論	2	63302	
	国際協力論特論演習	2	63302	
	ジェンダー科学技術論演習	2	63302	
	福祉地理学	2	63302	
	福祉地理学演習	2	63302	
	環境地理学	2	63302	
	環境地理学演習	2	63302	
	ジェンダー理論文化学	2	63302	
	専攻共通	ジェンダー学際研究報告(基礎)	1	63301
		ジェンダー学際研究報告(発展)	1	63301
ジェンダー学際研究論文指導		2	63302	
特別講義(博士後期課程)		2	63302	

◎：専攻の必修科目

ライフサイエンス専攻

	授 業 科 目	単位数	CCNum
生命科学	生態環境応答	2	63402
	生態環境応答演習	2	63402
	計算構造生物学	2	63402
	計算構造生物学演習	2	63402
	構造植物科学	2	63402
	構造植物科学演習	2	63402
	発生機構学	2	63402
	発生機構学演習	2	63402
	細胞・発生生物学	2	63402
	細胞・発生生物学演習	2	63402
	理科教育学	2	63402
	理科教育学演習	2	63402
	細胞膜機能学	2	63402
	細胞膜機能学演習	2	63402
	植物オルガネラ動態学	2	63402
	植物オルガネラ動態学演習	2	63402
	分子細胞機能	2	63402
	分子細胞機能演習	2	63402
	分子細胞生物学	2	63402
	分子細胞生物学演習	2	63402
	分子細胞運動	2	63402
	細胞神経生理学	2	63402
	細胞神経生理学演習	2	63402
	生体応答ダイナミクス	2	63402
	生体応答ダイナミクス演習	2	63402
	植物分子生理学	2	63402
	植物分子生理学演習	2	63402
	進化多様性	2	63402
	進化多様性演習	2	63402
	先端動物学	2	63402
	動物学応用演習	2	63402
	生物圏科学	2	63402
	生物圏科学演習	2	63402
	生体高分子科学	2	63402
	生体高分子科学演習	2	63402
	生体分子科学	2	63402
	生体分子科学演習	2	63402
	ゲノム情報学	2	63402
	ゲノム情報学演習	2	63402
	生体ネットワーク解析学	2	63402
	生体ネットワーク解析学演習	2	63402
	生体防御システム	2	63402
	生体防御システム演習	2	63402
	中枢神経科学	2	63402
	中枢神経科学演習	2	63402
シグナル伝達機構	2	63402	
シグナル伝達機構演習	2	63402	
食品栄養科学	嗜好性設計学	2	63402
	嗜好性設計学演習	2	63402
	食品貯蔵学	2	63402
	食品貯蔵学演習	2	63402
	食品生理機能学	2	63402
	食品生理機能学演習	2	63402
	栄養制御学	2	63402
	栄養制御学演習	2	63402
	分子栄養学	2	63402
	分子栄養学演習	2	63402

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
食品栄養科学	栄養臨床医学・疫学	2	63402	
	栄養臨床医学・疫学演習	2	63402	
	環境医学	2	63402	
	環境医学演習	2	63402	
	病態制御学	2	63402	
	病態制御学演習	2	63402	
	国際公衆栄養学	2	63402	
	国際公衆栄養学演習	2	63402	
	食行動学	2	63402	
	食行動学演習	2	63402	
	食品安全管理学	2	63402	
	食品安全管理学演習	2	63402	
	食品バイオテクノロジー	2	63402	
	食品バイオテクノロジー演習	2	63402	
	食健康医学	2	63402	
	食健康医学演習	2	63402	
	給食品質管理論	2	63402	
	給食品質管理演習	2	63402	
	遺伝カウンセリング	遺伝カウンセリング論	2	63402
		遺伝カウンセリング論演習	2	63402
		情報分子論	2	63402
		情報分子論演習	2	63402
		アレルギー学	2	63402
		アレルギー学演習	2	63402
		人類生殖・発生学	2	63402
人類生殖・発生学演習		2	63402	
ゲノム遺伝学		2	63402	
ゲノム遺伝学演習		2	63402	
遺伝カウンセリング分野発達心理学		2	63402	
遺伝カウンセリング分野発達心理学演習		2	63402	
遺伝カウンセリング分野発達臨床心理学		2	63402	
遺伝カウンセリング分野発達臨床心理学演習		2	63402	
遺伝カウンセリング分野発達精神病理学		2	63402	
遺伝カウンセリング分野発達精神病理学演習	2	63402		
遺伝カウンセリング分野障害臨床論	2	63402		
遺伝カウンセリング分野障害臨床論演習	2	63402		
分子集団遺伝学	2	63402		
分子集団遺伝学演習	2	63402		
専攻共通	ライフサイエンス研究報告(基礎)	1	63401	
	ライフサイエンス研究報告(発展)	1	63401	
	ライフサイエンス論文指導	2	63402	
	特別講義(博士後期課程)	2	63402	
	* 食育総合研究	3	63403	
	* C S T総合研究	3	63403	

◎：専攻の必修科目

*：修了に必要な単位に含めることができない。

理学専攻

	授 業 科 目	単位数	CCNum	
数学	数理多様体構造論	2	63502	
	数理多様体構造論演習	2	63502	
	確率解析論	2	63502	
	確率解析論演習	2	63502	
	数理解析論	2	63502	
	数理解析論演習	2	63502	
	関数解析論	2	63502	
	関数解析論演習	2	63502	
	代数表現論	2	63502	
	代数表現論演習	2	63502	
	整数構造論	2	63502	
	整数構造論演習	2	63502	
	ホモトピー数学	2	63502	
	ホモトピー数学演習	2	63502	
	組み合わせ構造論	2	63502	
	組み合わせ構造論演習	2	63502	
	特異点論	2	63502	
	特異点論演習	2	63502	
	大域幾何構造論	2	63502	
	大域幾何構造論演習	2	63502	
	物理科学	統計物理学	2	63502
		統計物理学演習	2	63502
		凝縮系科学	2	63502
		凝縮系科学演習	2	63502
		ゲージ理論	2	63502
ゲージ理論演習		2	63502	
宇宙天体物理学		2	63502	
宇宙天体物理学演習		2	63502	
極端条件科学		2	63502	
極端条件科学演習		2	63502	
ナノスケール物理		2	63502	
ナノスケール物理演習		2	63502	
複雑系の秩序形成		2	63502	
複雑系の秩序形成演習		2	63502	
ソフトマテリアルズの物理		2	63502	
ソフトマテリアルズの物理演習	2	63502		
非線形現象解析	2	63502		

	授 業 科 目	単位数	CCNum
物理科学	非線形現象解析演習	2	63502
	高エネルギー物理	2	63502
	高エネルギー物理演習	2	63502
	強相関物理	2	63502
	強相関物理演習	2	63502
	応用物性科学	2	63502
	応用物性科学演習	2	63502
	放射線環境学	2	63502
	放射線環境学演習	2	63502
化学・生物化学	複雑系量子化学	2	63502
	複雑系量子化学演習	2	63502
	動的溶液化学	2	63502
	動的溶液化学演習	2	63502
	機能性有機化学	2	63502
	機能性有機化学演習	2	63502
	有機反応設計	2	63502
	有機反応設計演習	2	63502
	複雑系分析化学	2	63502
	複雑系分析化学演習	2	63502
	ナノ界面化学	2	63502
	ナノ界面化学演習	2	63502
	構造分子科学	2	63502
	構造分子科学演習	2	63502
	糖鎖生物化学	2	63502
	糖鎖生物化学演習	2	63502
	細胞機能化学	2	63502
	細胞機能化学演習	2	63502
	超分子構造化学	2	63502
超分子構造化学演習	2	63502	
機能性錯体化学	2	63502	
機能性錯体化学演習	2	63502	
ナノ構造材料化学	2	63502	
ナノ構造化学演習	2	63502	
情報科学	環境情報論	2	63502
	環境情報論演習	2	63502
	非可換解析論	2	63502
	非可換解析論演習	2	63502
	画像情報論	2	63502
	画像情報論演習	2	63502
	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション論	2	63502
	ヒューマン・コンピュータ・インタラクション論演習	2	63502
	情報ネットワーク論	2	63502
	情報ネットワーク論演習	2	63502
	知能情報処理論	2	63502
	知能情報処理論演習	2	63502
	コンピュータ援用論	2	63502
	コンピュータ援用論演習	2	63502
	プログラム変換論	2	63502
	プログラム変換論演習	2	63502
	数理言語科学論	2	63502
数理言語科学論演習	2	63502	
統計数理論	2	63502	
統計数理論演習	2	63502	
複雑系論	2	63502	
複雑系論演習	2	63502	
専攻共通	理学研究報告(基礎)	1	63501
	理学研究報告(発展)	1	63501
	理学論文指導	2	63502
	特別講義(博士後期課程)	2	63502

◎：専攻の必修科目

生活工学共同専攻

	授 業 科 目	単位数	CCNum
専攻共通	生活工学特別講義A(発展)※	1	63601
	生活工学特別講義B(発展)	1	63601
	◎研究倫理・研究マネジメント	1	63601
	知的財産論(発展)	1	63601
	研究計画演習(発展)	1	63601
	繊維素材分子論※	2	63602
	繊維素材分子論演習※	2	63602
	繊維構造解析論※	2	63602
	繊維構造解析論演習※	2	63602
	生体材料物性※	2	63602
	生体材料物性演習※	2	63602
	環境材料機能学	2	63602
	環境材料機能学演習	2	63602
	衣工学	2	63602
	衣工学演習	2	63602
	人間情報学※	2	63602
	人間情報学演習※	2	63602
	知能情報処理論※	2	63602
	知能情報処理論演習※	2	63602
	五感情報処理論※	2	63602
	五感情報処理論演習※	2	63602
	実世界計算機論	2	63602

	授 業 科 目	単位数	CCNum
専攻共通	実世界計算機論演習	2	63602
	環境生理心理論※	2	63602
	環境生理心理論演習※	2	63602
	居住環境管理論※	2	63602
	居住環境管理論演習※	2	63602
	居住空間構成計画論※	2	63602
	居住空間構成計画論演習※	2	63602
	環境衛生工学特論	2	63602
	環境衛生工学演習	2	63602
	ライフサイクルアセスメント	2	63602
	ライフサイクルアセスメント演習	2	63602
	建築計画論	2	63602
	建築計画論演習	2	63602
	建築環境論	2	63602
	建築環境論演習	2	63602
	建築設計学	2	63602
	建築設計学演習	2	63602
	生活支援工学	2	63602
	生活支援工学演習	2	63602
	生活環境史特論	2	63602
生活環境史演習	2	63602	
生活工学ゼミナールⅠ	2	63602	
生活工学ゼミナールⅡ	2	63602	
生活工学ゼミナールⅢ	2	63602	
生活工学デザインワークショップ(LIDEE実践)	2	63602	
生活工学3D デジタルデザイン演習	1	63601	
インターンシッププロジェクト	2	63602	
◎生活工学特別研究(博士)	10	6360A	

◎：専攻の必修科目

※：奈良女子大学開講科目

共通科目

	授 業 科 目	単位数	CCNum
博士前期課程設置科目	生命倫理学特論	2	53002
	ゲノム医学特論	2	53002
	英語アカデミック・プレゼンテーション	2	53002
	予測生物学	2	53002
	データサイエンス特論	2	53002
	データサイエンス実践	2	53002
	プレゼンテーション論演習	2	53002
	プレゼンテーション法研究	1	53001
	サイエンス・リーディング	1	53001
	サイエンス・コミュニケーション論	2	53002
	サイエンス・ライティング(基礎)	1	53001
	科学教育企画特論(基礎)	1	53001
	科学教育に生かす倫理思想とカウンセリング技術	1	53001
	英語アカデミック・ライティング	2	53002
	アカデミック女性リーダーへの道(基礎編)	2	53002
	アカデミック女性リーダーへの道(応用編)	2	53002
	アカデミック女性リーダーへの道(ロールモデル編)	2	53002
	アカデミック女性リーダーへの道(実践編)	2	53002
	男女共同参画国際演習Ⅰ	2	53002
	男女共同参画国際演習Ⅱ	2	53002
	男女共同参画国際演習Ⅲ	2	53002
	男女共同参画国際演習Ⅳ	2	53002
	リーダーシップ国際演習Ⅰ	2	53002
	リーダーシップ国際演習Ⅱ	2	53002
	リーダーシップ国際演習Ⅲ	2	53002
	リーダーシップ国際演習Ⅳ	2	53002
	エビデンス食教育論	2	53002
	食育研究コロキウム	2	53002
	食のサイエンス	2	53002
	食をめぐる環境論	2	53002
	食文化論	2	53002
	国際日本文化論	2	53002
	トランス・サイエンス論	2	53002
	科学史・科学社会学特論	2	53002
	行政特論	2	53002
	経済政策特論	2	53002
	産学連携(実践編)	2	53002
	Essential Mathematics for Global Leaders I	2	53002
	Essential Physics for Global Leaders I	2	53002
	Essential Chemistry for Global Leaders I	2	53002
	Essential Bioinformatics for Global Leaders I	2	53002
	Essential Computer Science for Global Leaders I	2	53002
	Essential Engineering and Technology for Global Leaders I	2	53002
	Project Based Team Study I	6	53002
	Essential Mathematics for Global Leaders II	2	53002
	Essential Physics for Global Leaders II	2	53002
	Essential Chemistry for Global Leaders II	2	53002
Essential Bioinformatics for Global Leaders II	2	53002	
Essential Computer Science for Global Leaders II	2	53002	
Essential Engineering and Technology for Global Leaders II	2	53002	
Essential Philosophy for Global Leaders	2	53002	

	授 業 科 目	単位数	CCNum
博士前期課程設置科目	Essential Ethics for Global Leaders	2	53002
	Essential History for Global Leaders	2	53002
	Essential Culture and Arts for Global Leaders	2	53002
	IT 活用法 I	2	53002
	IT 活用法 II	2	53002
	グローバル研修 I	1	53001
	アウトリーチ実践	2	53002
	プロジェクトマネジメント特論	2	53002
	グローバル理工学特別講義 I	1	53001
	グローバル理工学特別講義 II	1	53001
	グローバル理工学特別講義 III	1	53001
	グローバル理工学特別講義 IV	1	53001
	グローバル理工学特別講義 V	1	53001
	グローバル理工学特別講義 VI	1	53001
	グローバル理工学特別講義 VII	1	53001
	グローバル理工学特別実習 I	1	53001
	グローバル理工学特別実習 II	1	53001
	グローバル理工学特別実習 III	1	53001
	グローバル理工学特別実習 IV	1	53001
	グローバル理工学特別実習 V	1	53001
	グローバル理工学特別実習 VI	1	53001
	グローバル理工学特別実習 VII	1	53001
	* Special Lectures in Humanities and Sciences I	2	53002
	* Special Lectures in Humanities and Sciences II	2	53002
	* Special Lectures in Humanities and Sciences III	2	53002
	* 日本語夏季演習 I	2	53002
	* 日本語夏季演習 II	2	53002
	* 日本語夏季演習 III	2	53002
	* 日本語夏季演習 IV	2	53002
	* 国際協働研究実習 I	2	53002
	* 国際協働研究実習 II	2	53002
	* Global Research Projects in Humanities and Sciences I	2	53002
	* Global Research Projects in Humanities and Sciences II	2	53002
	* Global Research Projects in Humanities and Sciences III	2	53002
	* インターンシップ (大学院)	2	53002
	* Ocha-Solution Program (応用)	2	53002
	* 科学教育特別研究	4	53004
	* 科学教育基礎	2	53002
	* 科学教育 I	2	53002
	* 科学教育 II	2	53002
	* 科学教育教材研究	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 (E S A) I	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 (E S A) II	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 III	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 IV	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 V	2	53002
	* 上級英語コミュニケーション演習 VI	2	53002
	* 上級英語演習 I (R/W)	2	53002
	* 上級英語演習 II (R/W)	2	53002
	* 上級英語演習 III (L/S)	2	53002
	* 上級英語演習 IV (L/S)	2	53002
	* T O E F L 対策演習 R/L	2	53002
	* T O E F L 対策演習 S/W	2	53002
	* I E L T S 対策演習 R/L	2	53002
	* I E L T S 対策演習 S/W	2	53002
	* 時事英語演習 I	2	53002
	* 時事英語演習 II	2	53002
	* ビジネス英語演習 I	2	53002
	* ビジネス英語演習 II	2	53002
	* 英語プレゼンテーション演習 I	2	53002
	* 英語プレゼンテーション演習 II	2	53002
	* 「平和と共生」実践演習	2	53002
	* 国際共生社会論フィールド実習	2	53002
	* アートマネジメント特別講義 I	2	53002
	* アートマネジメント特別講義 II	2	53002
	* アートマネジメント特別演習 I	2	53002
	* アートマネジメント特別演習 II	2	53002
* 未来起点研究 I	2	53002	
* 未来起点研究 II	2	53002	
* 未来起点研究 III	2	53002	
* 未来起点研究 IV	2	53002	
* 女性活躍推進講座	2	53002	
博士後期課程設置科目	キャリア開発特論(基礎編)	2	53002
	キャリア開発特論(応用編)	2	53002
	キャリア開発特論(ロールモデル編)	2	53002
	キャリア開発特論(実践編)	2	53002
	グローバル女性リーダー特論(基礎編)	2	53002
	グローバル女性リーダー特論(応用編)	1	53001
	グローバル女性リーダー特論(ロールモデル編)	1	53001
	グローバル女性リーダー特論(実践編)	1	53001
	Project Based Team Study II	8	53008
	グローバル研修 II	2	53002
	* プロフェッショナルインターンシップ	1	53001

* : 修了に必要な単位に含めることができない。

備考 博士前期課程共通科目として単位を修得した科目は履修できない。

7 学修状況チェックシステムとポートフォリオ

(1) 学修状況チェックシステム alagin について

alagin (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、成績や履修単位数などの学修状況を学内LANで、いつでも確認できるチェックシステムです。



① alaginへのアクセス方法 = スチューデントアクセス

本学のウェブサイトの随所（大学トップページの「在学生の方」や学生ポータルサイトなど）にalaginへのリンクがあります。日常使いには「スチューデントアクセス（左図）」から入るのが便利でしょう。

スチューデントアクセス（Google検索などでヒットします）には、本学での学修にあたり頻繁に利用するサイトへのリンクボタンが集約されています。たとえば、学びのポートフォリオ、年間の学事日程、chimesやploneといった授業支援システム、シラバス、教務システム、授業アンケート、海外渡航申請icoru、卒業生・修了生進路情報paoなどです。ここに学修状況チェックシステムalaginへのボタンもあります。

ですから、これを普段使うwebブラウザでブックマークすることはもちろん、スマホやタブレットのホーム画面にwebクリップアイコンを作るなどして便利に活用してください。

ただし、alaginは成績や履修状況といったデリケートな情報を扱っているため、インターネットには流していません。閲覧にはキャンパス内の学内LAN（ochaなど）でアクセスしてください。統合認証を経て入ります。閲覧後はログアウトしてください。セメスター学期末におこなわれる授業アンケート時期以降は、そのアンケートに回答したのちにalaginに入れるようになっています。これは各授業とみなさんとのあいだで、授業の成果を振り返り、双方向のコミュニケーションをつくることで学修の質を高めあうための仕組みです。

② 学修単位数の状況

セメスター学期ごとの履修登録単位数、取得単位数、GPA算入単位数の推移を確認できます。



alagin

成績表

color code numbering	授業コード	科目名	単位数	LG	GP	平均GP	年度	学期
43102	1741252	日本文学専修特修	2	A	4.5	3.071	2017	前期
43102	1741253	日本文学専修特修	2	A	3.5	3.5	2017	前期
43102	1741254	日本文学専修特修	2	A	4.5	4.5	2017	前期
43102	1741255	日本文学専修特修	2	A	3.5	3.5	2017	前期
43102	1741256	日本文学専修特修	2	A	3.5	3.5	2017	前期
43102	1741257	日本文学専修特修	2	A	3.5	3.5	2017	前期
43102	1741258	日本文学専修特修	2	A	3.5	3.5	2017	前期
43102	1741249	日本文学専修特修	2	A	3.5	3.5	2017	前期
43102	1841237	日本文学専修特修	2	A	4.5	4	2018	前期
43102	1841238	日本文学専修特修	2	A	4.5	4.5	2018	前期
43102	1841240	日本文学専修特修	2	A	5.5	3.5	2018	前期

11件中 1~11件を表示

③ 成績表

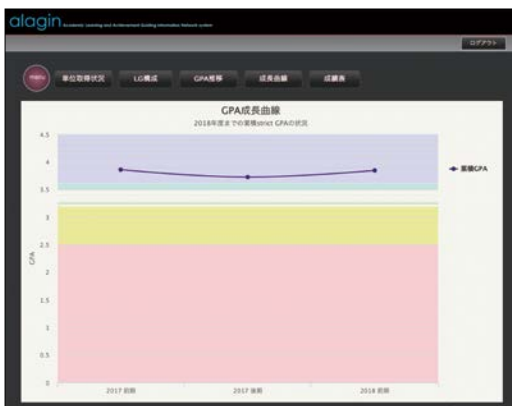
セメスター学期ごとに更新される成績一覧です。履修した全科目のカラーコードナンバリング、授業コード、科目名、単位数、レターグレード、グレードポイント、その科目のグレードポイントの平均値、履修年度と学期が記載されます（不合格になった科目も表示されます）。項目名の横をクリックすると昇順、降順での並び替えができます。右上の検索により、全文にわたっての検索絞り込みができます。



④ GPAの学期ごとの推移・学修成長曲線

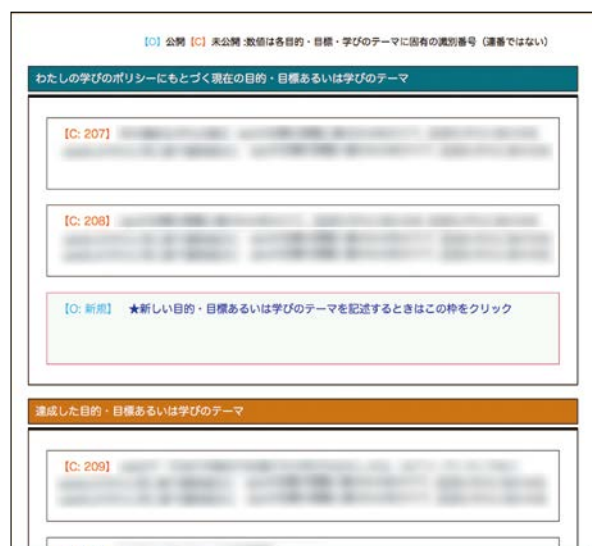
GPAによる学修成果状況を、つぎの2観点で確認できます。用いているGPA指標はf-strictGPA（当履修ガイドのGPA制度を参照）です。（1）自分のGPAの「学期ごとの推移」を確認できます。グラフ背景は大学院における平均GPAをあらわす緑色のラインがあります。

（2）学修成長曲線。これは博士前期課程または後期課程における各学期ごとにGPAを入学以来の「累積」で示したグラフです。学期ごとのGPAに比較すると当初からの加算で示されるため変動が緩やかになります。その分、学期間のパフォーマンスのばらつきが相殺されて修学期間を通じた学修プロセスの成果状況をよく映し出すこととなります。そのため点間をあえて曲線で補完して表現しています。この曲線では変化の量（大きさ）よりも全体の形状に注目します。全体にマイナス成長やマイナス気味になっている場合はその原因と対策の検討をお勧めします。グラフ背景の色分けの意味は実際のグラフに付記している説明をご覧ください。



(2) ラーニング & スタディ・ポートフォリオ super alagin について

ラーニング & スタディ・ポートフォリオ (super alagin) は、大学院の授業に関連した学修 (ラーニング) と、みなさん個々の研究 (スタディ) の双方について自分のポリシーを明確にして、それらに沿った具体的な目的・目標、主題、またその計画や手続き、方法等を記述し、それらについて達成した成果を記録して学びや研究を振り返るための基盤です。同時に、それらを公開して修学や研究の実績を示し、対外的な説明の機会に役立てていく仕組みです。とくにこのポートフォリオは後者の公開機能に特徴があります。その点を勘案し有効に活用してください。



① super alaginへのアクセス方法

alaginと同様、スチューデントアクセスにリンクボタンがあります。こちらは学外からも使えます。

② 自分の学びのポリシー

ポートフォリオに入ると、冒頭に本学の学位授与に関するポリシーを参照できます。これを参考に、自分の学修や研究のポリシーを記述するとよいでしょう。ここで学修とは授業に関する学びのことです。したがって、このポリシーにもとづき授業の履修計画を立て学んでいくことになります。

一方、大学院では特に自身の研究も深めてゆくことが求められます。したがって、それらスタディのポリシーもしっかり記述してください。

以下同様にすべての記述は同じエリアにある緑色の記述ボタンをクリックすることで記述・更新できるページに進めます。

ポリシーは学びが進めば変化していくことが自然です。ですから、最初はあまり気負わずに書きます。そして更新を重ねて学びの進行とともにポリシーの最適化を図ってください。ポリシーの変化を残しておきたければ、上書きをせず日付をつけるなどして残しておけばよいでしょう。

③ 個別具体的な学びや研究の目標と成果

ポリシーの下部には個別具体的なラーニングやスタディの目標・目的を表示・記述する部分があります。ここがポートフォリオの中心部分です。

新規に書く部分をクリックすれば目標・目的、その計画や方法が記述できるページに進めます。のちにその成果が得られたらその成果記述を加えます。同時に、その根拠となる写真や画像3枚とpdfの資料1つ、参照webがあればそのリンクつきURLを3つ載せることができます。動画を載せたい場合は動画サイトなどを活用し、そのURLを載せればよいでしょう。

成果は具体的でわかりやすいことがだいじです。写真や資料を積極的に載せてください。もっとも使い方は自由です。目標、計画、成果とも現在進行形で記述し、プロジェクト管理に使っていくこともよいでしょう。

この目標記述はいくつでも載せることができ、他の項目同様、記述量に制約はありません。



④ super alaginの公開

記述したポリシーや目標の初期値はインターネットへの「公開」設定になっています。これらを未公開に設定することもできます。ただし、学生同士互いに刺激しあい情報を共有する意味でも、またみなさんの学修や研究の姿を広く多くの人に知っていただくためにもできるだけ公開にしたほうがよいはずです。

進行中の目標についてはその目標・目的・テーマの部分のみが公開対象です。達成した目標・目的・テーマについては計画や成果、画像、URL、pdfも併せて公開します。それぞれ更新日時の新しい順に一定数インターネット上でみられます。この公開ページにもスチューデントアクセスにリンクボタンがあります。

super alaginは対外的に自分の大学院でのパフォーマンスを説明していく際にも活用できます。さまざまな採用機会においても、今後は公開ポートフォリオをつうじてのダイレクト・リクルーティングが活発になるだろうといわれています。super alaginはその方向に適応していくことを企図しています。

ユーザーである学生のみなさんに役立つことがsuper alaginの目的です。必要な機能等があればご意見をお寄せください。



alagin、super alaginともに現在も開発を進めており、進化しつづけています。したがって、皆さんの修学期間中に、さらに新たな情報の表示や機能の拡張や変更が施されていきます。伴ってここに記した操作方法や表示、内容が変更される場合もあります。常に接していれば、それらの変化には十分に対応できることでしょう。alagin、super alaginに関する問い合わせは、crde-hd@cc.ocha.ac.jp で受けつけています。

8 学籍・修業年限・学費

学籍とは、本学の学生としての身分を有していることをいいます。学籍は入学によって発生し、修了、退学、除籍によって失われます。在学とは、学生が本学の学籍を有し、現に学修している状態をいいます。在学期間とは、その学修している期間をいいます。修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な最小の在学期間をいい、在学年限とは、本学に在学できる最長の在学期間をいいます。

(1) 修業年限

標準修業年限は、博士前期課程は2年、博士後期課程は3年です。修業年限の2倍（在学年限）を超えて在学することはできません。

(2) 休学

病気その他の事由により修学することができないときは、事由を添えて学長に願い出てその許可を得る必要があります。なお、休学の期間はその学年末までとし、特別の事情があるときは、引き続き休学を願い出ることができます。

■留意事項

- ・休学期間は、博士前期課程では通算して2年を、博士後期課程では通算して3年を超えることができません。
- ・休学期間は、在学期間には算入しません。
- ・休学期間中にその事由が消滅したときは、学長の許可を得て復学することができます。
- ・休学期間中は、授業料は発生しません。
- ・休学期間満了後、「復学」「退学」「休学の延長」等の申し出がない場合は、授業料の納入が必要となります。

(3) 復学

休学の理由が解消して復学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

(4) 退学

退学を希望する者は、その理由を具して学長に願い出て、許可を受けなければなりません。

博士後期課程所属学生が、3年以上（休学期間を除く）在学し、修了に必要な授業科目について10単位以上を修得し、1年次から3年次までの研究報告を提出し、指導教員から必要な研究指導を受けた上で退学した場合は単位修得退学となり、退学後3年以内は課程博士に準じた論文審査を行うことができます。

(5) 除籍

次の各号のいずれかに該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍します。

- ・授業料を2期連続して滞納し、督促してもなお、当該2期分を納付しない者【P.154参照】
- ・大学院学則第44条（上記(1)修業年限を参照）に定める在学年限を超えた者
- ・大学院学則第40条第1項（上記(2)休学を参照）に定める休学期間を超えてなお修学できない者
- ・死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者
- ・入学料の免除を申請した者で、免除を許可されなかった場合又は半額免除を許可された場合であって、納付すべき入学料の全額又は半額を所定の期日までに納付しない者

(6) 転学

本学から他の大学に転学しようとする者は、学長の承認を得なければなりません。

(7) 留学

留学及び海外研究旅行をする者は、所定の様式（学務課で配付）に記入の上、学務課へ提出すること。ただし、学内予算

による海外出張等については、担当部署に提出する書類をもって、これに替えることができる。

①留学

- ア. 研究目的達成に必要な場合、主任指導教員の下承を得て留学することができる。
- イ. 留学中は、研究指導教員と連絡を保ち、帰国後6ヶ月以内に研究報告書（留学先に提出した論文でも可）を提出するものとする。（博士後期課程所属学生にあっては、これを学年末の研究報告に替えることができる。）
- ウ. 大学院学則第38条の規定により、留学期間は1年を限度として在学期間に算入するものとされている。
- エ. 留学の期間は2年を限度とする。ただし、やむを得ない事情があると認められたときは、さらに1年以内に限りその延長を認める。
- オ. 留学の時期は、原則として2年次以降とする。
- カ. 後学期（10月）の場合、夏期休暇中の出発ないし帰国を妨げない。
- キ. 留学先の大学院は、博士前期課程所属学生にあっては博士前期課程、博士後期課程所属学生にあっては博士後期課程とする。
- ク. 所定の申請書と指導教員の意見書を提出すること。

②海外研究旅行

- 6ヶ月以内の短期間、研究目的で海外に渡航する場合は、海外研究旅行許可申請書（学務課で配付）を提出すること。
- ア. 研究課題について外国において調査・研究をする必要がある場合は、主任指導教員の下承を得て海外研究旅行をすることができる。
- イ. 期間は6ヶ月以内とし、在学期間に算入する。

③交換留学

本学では、大学間交流協定校に留学する「交換留学派遣制度」がある。交換留学生として派遣されるためには、学内の募集要項に従って応募申請を行い、選考（書類・面接）の通過を経て協定校の承諾を得る必要がある。
 なお、留学期間は修業年限に含まれ、修得した単位は一定の条件により認定されることもある。（一部例外あり）

大学間交流協定校一覧

(2019年12月現在)

協定校	国名	締結年月日	協定校	国名	締結年月日
アジア (27校)			アンカラ大学	トルコ	2007.08.08
インドネシア芸術大学デンパサール校	インドネシア	2014.01.10	アフリカ (2校)		
韓国芸術総合学校舞踊院	韓国	2011.01.17	カイロ大学	エジプト	2007.03.15
慶北大学校	韓国	2011.06.22	マンソウラ大学	エジプト	2003.03.30
啓明大学校	韓国	2013.07.09	北米 (11校)		
建国大学校	韓国	2014.03.21	ヴァッサー大学	アメリカ	2006.06.01
高麗大学校	韓国	2015.02.24	オルブライト大学	アメリカ	2015.04.27
淑明女子大学校	韓国	2000.02.14	カリフォルニア州立大学フラトン校	アメリカ	2015.12.22
同徳女子大学校	韓国	2005.03.30	カリフォルニア大学サンディエゴ校	アメリカ	2014.01.02
釜山大学校	韓国	2012.03.21	カリフォルニア大学デービス校	アメリカ	2010.09.30
釜山外国語大学校	韓国	2016.07.12	カリフォルニア大学リバーサイド校	アメリカ	2014.04.14
梨花女子大学校	韓国	2000.02.28	セントメアリーズ大学	アメリカ	2019.01.08
アジア工科大学院大学	タイ	2004.12.29	チャタム大学	アメリカ	2016.02.16
タマサート大学	タイ	2007.06.13	南オレゴン大学	アメリカ	2012.10.22
チェンマイ大学	タイ	2010.05.27	ミルズカレッジ	アメリカ	2018.07.13
プリンス・オブ・ソンクラー大学	タイ	2009.08.14	マギル大学	カナダ	2015.04.29
開南大学	台湾	2012.05.25	南米 (1校)		
国立政治大学	台湾	2001.07.25	サンパウロ大学	ブラジル	2016.08.23
国立台北芸術大学	台湾	2002.01.29	オセアニア (3校)		
国立台湾大学	台湾	1999.12.17	ニューサウスウェルズ大学	オーストラリア	2011.09.30
台北医学大学	台湾	2018.03.22	モナシユ大学	オーストラリア	1994.12.14
大連外国語大学	中国	2006.10.02	オタゴ大学	ニュージーランド	2003.12.19
北京外国語大学	中国	2005.10.17	ヨーロッパ (35校)		
北京大学歴史学系	中国	2002.01.26	オックスフォード大学クイーンズコレッジ	イギリス	1994.01.18
復旦大学歴史学系	中国	2010.10.12	オックスフォード大学リネカーカレッジ	イギリス	2017.09.19
国立ハノイ教育大学	ベトナム	2008.03.03	マンチェスター大学	イギリス	2009.09.15
ハノイ大学	ベトナム	2013.02.18	ハル大学	イギリス	2013.10.02
ベトナム科学技術アカデミー・ゲノム機関	ベトナム	2013.10.15	ロンドン大学キングスカレッジ	イギリス	2013.12.02
中東 (2校)			ロンドン大学 東洋・アフリカ研究学院	イギリス	1999.08.05
アルザフラー大学	イラン・イスラム共和国	2018.04.18	ロンドン大学バークベックカレッジ	イギリス	2017.07.01

協定校	国名	締結年月日
プリマス大学	イギリス	2018. 08. 18
国立ナポリ大学オリエンターレ	イタリア	2011. 01. 11
コッレージョ・ヌオーヴォ	イタリア	2013. 03. 25
‘サピエンツァ’ローマ大学	イタリア	2012. 07. 12
ウィーン工科大学	オーストリア	2002. 12. 05
ダーラナ大学	スウェーデン	2019. 06. 18
パリヤドリッド大学	スペイン	2018. 11. 01
ブルゴス大学	スペイン	2018. 03. 01
スロバキア工科大学	スロバキア	2003. 03. 04
リュブリャナ大学	スロベニア	2019. 01. 01
カレル大学	チェコ	2004. 09. 07
コペンハーゲン大学	デンマーク	2019. 06. 19
ケルン大学	ドイツ	2010. 03. 18
パーギシェ・ブッパタール大学	ドイツ	2002. 02. 24
ブレーメン応用科学大学	ドイツ	2011. 01. 21

協定校	国名	締結年月日
ノルウェー科学技術大学	ノルウェー	2017. 09. 18
セントリア先端科学大学	フィンランド	2009. 12. 01
タンペレ大学	フィンランド	2003. 02. 13
ストラスブール大学	フランス	2002. 07. 05
パリ・ディドロ（パリ第7）大学	フランス	2008. 02. 01
パリ市立工業物理化学高等大学	フランス	2014. 10. 08
クレルモン・オーベルニュ大学	フランス	2009. 08. 28
ボルドー大学	フランス	2011. 03. 01
ヨーロッパ理工学院パリ・デジタル	フランス	2015. 11. 09
イノベーション大学院		
ワルシャワ大学	ポーランド	2010. 02. 10
ヴィータウタス・マグヌス大学	リトアニア	2018. 11. 12
ブカレスト大学	ルーマニア	2009. 08. 03
トムスク国立教育大学	ロシア	2002. 07. 03

※協定校は随時更新されますので、最新情報は以下の大学HPにてご確認ください。

<http://www.ocha.ac.jp/intl/900/header-menu/partners/index.html>

(8) 学費

①授業料は、年額（535,800円、2020年4月1日現在による）を半期ごとに納入していただきます。納入方法は口座振替（自動引落）または銀行振り込みとなります。（事故防止の観点から、原則窓口における現金受付は行いません。）

口座振替（自動引落）の場合は、授業料預金口座振替依頼書により登録された口座から下記指定日に自動引落しを行いますので、前日までに登録した口座に入金願います。

銀行振り込みの場合は、本学指定口座に下記期限までに振り込んでください。（なお振込みの際の手数料は本人負担となりますので、ご了承ください。）

前学期分	口座振替 5月27日
	銀行振込 5月中
後学期分	口座振替 11月27日
	銀行振込 11月中

②経済的理由により、授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者に対し、半期ごとに選考の上、授業料の全額または半額を免除、あるいは授業料の徴収を猶予する制度があります。

■申請資格

本学大学院生であって、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者。

※原則として、標準修業年限を超過している者は免除の対象となりません。ただし、特別な事由があると認められる者を除きます。

詳しくは学生・キャリア支援課にお問い合わせください。

(9) 長期履修学生制度

この制度は、「職業を有する等の事情により、一般の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られ、標準の修業年限で修了することが困難な学生」を対象としています。そうした事情にある者は、博士前期課程の場合には2年間で設定されている修業年限を3年間又は4年間で履修し、博士後期課程の場合には、3年間で設定されている修業年限を4年間から6年間で履修し、課程を修了することを認められることがあります。

「職業を有する等」とは、有職者（正規雇用、臨時雇用〔パートタイムなど正規に近い勤務時間の者〕、自営業など）、家事、育児、介護、障がい等の事情にあることをいいます。

長期履修学生として認められた場合の授業料は、「定められた授業料の年額」に「修業年限に相当する年数」を乗じて得た額を「在学期間の年数」で除して得られた額となります。

◎年額＝定められた授業料の年額×標準修業年数（博士前期課程：2年）÷許可された修業年限（博士後期課程：3年）

（※在学中に授業料の改定が行われた場合には、新授業料を適用します。）

長期履修を希望する学生は下記に従って申請してください。

1) 必要書類：

- ①長期履修申請書・理由書（学務課窓口で配布する本学所定の用紙）
- ②在職証明書又は在職が確認できる書類（職業を有する者）
- ③その他、大学が必要とする書類

2) 申請書類の受付

申請書の締切りは2月末日。（10月入学者は、7月末日）

お茶の水女子大学 学務課 大学院担当（TEL: 03-5978-5822/FAX: 03-5978-5893）

3) 履修期間の短縮

履修期間の短縮を希望する場合は「長期履修期間短縮申請書」を、短縮を希望する学期が終了する2ヶ月前までに提出してください。

【注意事項】

長期履修を許可された場合、下記の項目について影響がないかどうか確認してください。

- ・授業料免除・徴収猶予申請について（予定を含む）
- ・学生宿舎の入居について
- ・奨学金等の受給について
- ・在留資格の更新について（留学生の場合）
- ・日本学術振興会の特別研究員等の採用（予定を含む）について
- ・その他、申請者固有の事情の有無について

(10) 学籍簿変更手続き

入学時に皆さんに提出してもらった学籍簿を基に学生証、在学証明書、通学証明書など各種証明書類の発行や卒業・修了時に授与する学位記を作成しています。学籍簿に記載した住所、保証人などを変更するとき、あるいは改姓をしたときは、各変更届を必ず提出してください。特に住所は各種証明書類の発行や緊急の連絡の際に必要ですから、変更したときは住所変更届を速やかに学務課教務担当に提出してください。変更届の用紙は学務課にあります。

(1) 公式メールアドレスについて

大学が皆さんに与える公式メールアドレスには大学からのお知らせや、非常時の確認などのEメールが配信されます。大学内だけではなく自宅からも見るができますし、設定することで携帯へ転送することも可能ですので、常にチェックできるようにしておいてください。利用方法については情報基盤センターなどでご確認ください。

公式メールアドレスは以下のアドレスです。

g (学籍番号) @edu.cc.ocha.ac.jp

※学籍番号部分には自分の学籍番号が入ります。

(2) 本学ホームページの紹介 <http://www.ocha.ac.jp>

大学で行われている研究やシンポジウムなどの告知が数多く発信されています。履修に関することや授業のシラバス、行事予定なども確認することができます。

また、奨学金や授業料免除、学生寮のことなど最新情報が掲載されていますので、積極的に活用してください。

大学ホームページで確認できる一覧

学 生 生 活 関 係	奨学金 授業料免除 授業料 学生寮 (国際学生宿舎、小石川寮、お茶大 SCC) 課外活動 (届出、貸出物品一覧など) 学園祭 各種証明書 学生相談室 就職 キャリア相談 ピアサポートプログラム 拾得物・遺失物
履 修 関 係	休講情報 教室変更 時間割変更 インフォメーション 履修登録日程 成績通知日程 休学・復学・退学の手続き シラバス 教務年間日程 教員免許など各種資格取得 学部・院教育研究者情報 各学部・大学院紹介 科目等履修生、研究生、聴講生の募集 証明書発行の手続き
そ の 他	国際交流 (留学) 本学の歩み 同窓会・後援会・生活協同組合 イベント情報 公開講座 セミナー案内 大学刊行物 図書館、情報基盤センターなど各種センター利用案内

(3) 学生ポータルサイトの紹介

大学ホームページ以外にも、学内はもちろん学外からでも授業や学生生活に関する情報にアクセスが可能な学生ポータルサイトを開設しています。休講情報や教室変更など授業に関する情報や学生生活上の重要な情報を随時掲載しておりますので、毎日必ずチェックしてください。

<http://tw.ao.ocha.ac.jp/>

※なお、学生ポータルサイトへのアクセスには入学時に配布した「お茶大アカウント」が必要です。

(4) Facebook・Twitter

企画戦略課 (広報担当) では、お茶の水女子大学の公式FacebookおよびTwitterを用いて情報を発信しています。ぜひファンやフォロワーになって最新情報をチェックしてみてください。

[Facebook] <https://www.facebook.com/ochadai>

[Twitter] アカウント : OchadaiNews <https://twitter.com/OchadaiNews>

(5) 学生証 (ICカード)

学生証は大学の内外に対してお茶の水女子大学の学生であることを証明するものであり休日および夜間の大学施設への入退館、図書館の利用、定期検診の受診、各種証明書の発行などにも学生証が必要です (発行までに1カ月程度かかります)。

■ 注意事項

- ① 本証は常に携帯し、必要に応じて提示しなければならない。
- ② 本証を更新するとき、または退学などによって学籍を離れたときは、返却すること。
- ③ 本証を紛失したときは、直ちに学生・キャリア支援課に届け出ること。
- ④ 本証は、他人に貸与または譲渡することはできない。

■ 再交付

紛失または著しく破損した場合は、直ちに学生・キャリア支援課で再交付の申請手続きをしてください。その際、写真 (4cm×3cm サイズ) が必要となります。

改姓などの場合は、再交付手続きと同時に氏名などの変更手続きを行う必要がありますので、学生・キャリア支援課および学務課まで届け出てください。

■ 更新手続き

留年、休学などにより、本証の有効期限を超えて在学する場合には、学生・キャリア支援課で更新手続きを行ってください。

(6) 教務関係事務の相談

履修上の各種の疑問は、学務課に問い合わせてください。学務課で解決できないときは、委員会や教授会等に諮ります。

(7) ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタント

① ティーチング・アシスタント (TA) について

本研究科に在籍する優秀な学生に対して教育補助業務を行わせ、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当支給により処遇の改善に資することを目的とする制度です。募集申請等については指導教員に問い合わせてください。

ア. 学部及び博士前期課程の学生に対する講義、実験、実習、演習等の教育補助業務に従事する。(博士前期課程の教育補助業務に従事するのは、博士後期課程所属学生に限る。)

イ. 給与は「国立大学法人お茶の水女子大学非常勤職員給与規程」に基づき支給する。

② リサーチ・アシスタント (RA) について

博士後期課程に在学する優秀な学生を、学内の部局において行う研究プロジェクト等に参加させ、研究活動の効果的推進、研究体制の充実及び若手研究者の研究遂行能力の育成を図ることを目的とする制度です。募集申請等については指導教員に問い合わせてください。

ア. 研究プロジェクト等の効果的推進のため、研究補助者として補助業務に従事する。

イ. 研究プロジェクト等を計画する部局の長が人間文化創成科学研究科長と協議し、選考する。

ウ. 給与は「国立大学法人お茶の水女子大学非常勤職員給与規程」に基づき支給する。

(8) 基幹研究院研究員

若手研究者育成のため研究進捗の援助等を行い、併せて基幹研究院の研究面での活性化を促すために設けられた制度です。本学の大学院博士後期課程を修了した者で常勤の職を有しない者の内から、基幹研究院長が選考します。

希望者は、指導教員に問い合わせてください。

(9) 国際教育センター

外国人留学生及び海外留学を希望する日本人学生に対し、修学及び生活に必要な教育・指導助言を行うとともに、地域と連携した留学生のための支援事業を実施します。

(10) 諸証明書の発行

学生が修了見込証明書、成績証明書を希望するときは、学生センター棟に設置されている自動発行機で受けとることができます。そのほかの証明書や修了後に修了証明書等を希望するときは、学務課（学生センター棟）備え付けの「証明書交付願」に記入し、提出しなければなりません。その場合は4日間程度（ただし、土・日・祝日は除く）で発行します。

(11) 掲示の場所

大学から学生に連絡する事項は、主に学生センター棟横の掲示板に掲示します。見落としのないよう毎日一度は掲示に注意してください。

(12) 窓口別連絡先

部署名	TEL	メールアドレス	窓口取り扱い時間	場 所
学 務 課	03-5978-5141	kyomu@cc.ocha.ac.jp	平日8時30分から17時	学生センター棟1階
学生・キャリア支援課	03-5978-5147	gakusei@cc.ocha.ac.jp	平日8時30分から17時	学生センター棟2階
国 際 課 ○外国人留学生に関すること ○海外派遣に関すること	03-5978-5143 03-5978-5722	ryunai@cc.ocha.ac.jp ryu@cc.ocha.ac.jp	平日8時30分から17時	学生センター棟3階
財 務 課 (経 理 担 当)	03-5978-5119	keiri@cc.ocha.ac.jp	平日8時30分から17時	大学本館1階114室
施 設 課 (施 設 管 理 担 当)	03-5978-5125	kanzai@cc.ocha.ac.jp	平日8時30分から17時	大学本館1階119室
施 設 課 (環 境 安 全 担 当)	03-5978-5790	anzen@cc.ocha.ac.jp	平日8時30分から17時	大学本館1階113室
保 健 管 理 セ ン タ ー	03-5978-5156	Hp-c-health@cc.ocha.ac.jp	平日9時から17時 (12時から13時を除く)	保健管理センター (食堂となり)
図 書 館			平日8時45分から21時 (授業のない期間は17時まで) 土10時から18時 日13時から18時 (授業のない期間は閉館) 一部サービスは平日9時から12時、13時から17時	図書館
情 報 基 盤 セ ン タ ー	03-5978-5885		平日10時から17時	附属図書館2階事務室
教 学 IR・教 育 開 発・ 学 修 支 援 セ ン タ ー	03-5978-2047	l-sc@cc.ocha.ac.jp	学生ポータルサイトに掲出	学生センター棟1階
国 際 教 育 セ ン タ ー ○受入：外国人留学生対象 ○派遣：海外留学希望者対象			平日10時から17時 (夏・冬・春期休業期間中は閉室) 平日10時から17時	留学生相談室 (共通講義棟3号館5階) 学生センター棟3階
パ ソ コ ン 相 談 担 当	03-5978-5354	pc-skillup@cc.ocha.ac.jp		

学生関係の窓口業務と諸手続き一覧

担当窓口	手続名		期限
学務課 大学院担当	履修・授業関係	履修相談、学業成績、授業時間割（休講・変更）・試験・補講	その都度
		履修登録、学位論文申請、特別聴講学生受付	別に指示
		追試験願	1週間以内
		※修了（見込）証明書	4日前
		※成績証明書	〃
		学位授与（見込）証明書、単位修得退学（見込）証明書	〃
		他大学等において修得した単位等に係る認定願	その都度
学務課 学部担当	科目等履修生 研究生関係	科目等履修生・研究生受付	毎年受け付けされる期間内
		単位修得証明書発行	その都度
学務課 教務担当	免許・実習関係	教職関係（教員免許状、教育実習）	その都度
		そのほか資格（学芸員課程・社会教育主事）	〃
		教育職員免許状一括申請受付	別に指示
		教育実習履修届	〃
	身上異動関係	住所変更・氏名変更届	その都度
		通称名等使用申出書	〃
		休学願	4月適用の場合、2月末日まで 10月適用の場合、8月末日まで
		復学願	
		退学願	
		保証人変更届	その都度
国際課	外国人留学生関係	外国人留学生に関する事（奨学金・在留資格・証明書等）	その都度
	海外留学関係	海外留学に関する事	〃
財務課 （経理担当）	授業料納付	授業料に関する問い合わせ	その都度
		授業料の納付領収書発行	その都度
施設課 （施設管理担当）	施設使用	館山野外教育施設使用申込書	その都度
施設課 （環境安全担当）	施設使用	自転車（バイクを含む）駐輪許可申請に関する事	その都度
情報基盤 センター	パソコン・ネット ワーク使用	学内でのコンピュータ利用に関する相談・回答	その都度
		お茶大アカウントに関する事	〃
		マイパソコン関係	〃
		パソコン活用のための学習支援・相談・回答	〃
		個人利用パソコンの貸出	〃

担当窓口	手続名	期限	
学生・キャリア 支援課	学生生活関係	各種届け出・物品貸し出し	その都度
		拾得・遺失物	〃
		掲示物届け出	〃
		下宿・アパート紹介	〃
		学生証（再発行含む）	入学時（その都度）
		※在学証明書	その都度
		※学割証	〃
		通学証明書	〃
	課外活動関係	学生サークル・課外活動	×
		徽音祭	×
		課外活動施設	×
		団体設立届	その都度
		集会届	使用日の8日前まで
		ビラの配布、署名運動届け出	その都度
		登山届	出発日の8日前まで
		テニスコート利用届	その都度
	奨学金・ 授業料免除・ 学資貸付関係	奨学金（日本学生支援機構、地方公共団体、学内奨学金、その他）	×
		奨学生願書	掲示の都度
		授業料免除申請書	別に指示
		授業料徴収猶予（月割分納）申請書	〃
		学資貸付金申し込み	その都度
	寮関係	学生寮（国際学生宿舎・小石川寮・お茶大 SCC）の事務	×
		入寮願	別に指示
		退寮届	その都度
	キャリア支援関係	進路・キャリア相談	その都度
		就職情報・資料収集	〃
		家庭教師・アルバイト	〃
		就職内定届・就業登録票	〃
		推薦書	〃
	保険関係	学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険	〃
	学生相談室	心理教育プログラム（グループワーク等）	その都度
		個人相談	〃
セクシャル・ハラスメント等 人権侵害相談室	保健関係	セクハラ・パワハラ・アカハラ等人権侵害への相談窓口	〃
保健管理 センター		健康相談・体調管理など	〃
			※健康診断書

※自動発行機で発行可能（修了証明書は修了見込証明書のみ発行可能）

ただし、博士後期課程の学生は、修了見込証明書、成績証明書は自動発行機では発行できませんので、学務課大学院担当窓口にて申請してください。

(13) その他

・人間文化創成科学研究科発行雑誌

本研究科における教育・研究の成果の公開を目的として『人間文化創成科学論叢』（外部レフェリー制）を刊行しているので、募集の掲示に従い、投稿してください。

なお、詳細については、掲示及びホームページにて案内します。

